

科目名	国語科指導法 I	年次	2	単位数	4
授業期間	2024 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	龍本 那津子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>授業目的: 中等教育における国語科授業を担当するために必要な基礎的知識、技能を身に付け、学習指導計画を立て模擬授業を行う力を育成する。</p> <p>到達目標: 中学校および高等学校学習指導要領に基づき、国語教育の現状と課題、目標や内容等を理解し、学習指導計画を立てるための基礎的知識が身についている。学習指導計画を立て、学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。</p>					
授業概要					
<p>対面授業前期は、中学校および高等学校の国語教育の意義と役割を理解するとともに、〔思考力・判断力・表現力等〕(「話す・聞く」「書く」「読む」と「知識及び技能」)の指導法に関して、基本的な事項を学ぶ。また、発問や板書、教材・教具の取扱いなどの授業実践に必要な事項を学ぶ。</p> <p>後期は、特に「読むこと」の学習に焦点を当てて学習指導案の作成や模擬授業を行い、授業を行う際の留意点や、生徒の実態把握を行う観点、授業デザインの手法等を学ぶ。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回国語の基礎知識に関する小テストを行うので、予習が必要である。 ・発表やグループワーク、討論などを行うので、積極的に取り組んで欲しい。 ・その他、授業中に指示する課題を確実に提出すること。 					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業に取り組む姿勢			30		
模擬授業・課題の内容			50		
レポート			20		
教科書情報					
教科書1	実践国語科教育法-第4版:「楽しく、力のつく」授業の創造				
出版社名	学文社	著者名	町田守弘(編集)		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	「中学校学習指導要領」				
出版社名	東山書房	著者名			
参考書名2	「高等学校学習指導要領」				
出版社名	東山書房	著者名			
参考書名3	「中学校学習指導要領解説 国語編」				
出版社名	東洋館出版	著者名			
参考書名4	「高等学校学習指導要領解説 国語編」				
出版社名	教育出版	著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
{文部科学省,http://www.mext.go.jp/}	
特記事項	
教員実務経験	
元高等学校国語科教諭の教員が、高等学校国語科授業の経験を活かして、具体的な指導方法を授業する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	はじめに:国語科指導法 I で何を学ぶか
2	国語科の制度—学習指導要領と教科書
3	授業構成の要素① 発問と指示
4	授業構成の要素② 板書・ノート指導・ワークシート
5	「話すこと・聞くこと」の授業
6	「書くこと」の授業
7	「読むこと」の授業①文学的な文章
8	「読むこと」の授業②説明的な文章
9	詩歌の授業
10	古典の授業(「我が国の言語文化に関する事項」)
11	漢字・語彙の指導
12	グループ学習をどう生かすか
13	国語科における評価について学ぶ
14	指導計画・学習指導案の作成について学ぶ①
15	指導計画・学習指導案の作成について学ぶ②
16	実践模擬授業の教材分析
17	実践模擬授業の指導計画を立てる
18	実践模擬授業の学習指導案作成(全体案と評価規準)
19	実践模擬授業の学習指導案作成(本時案)
20	実践模擬授業と振り返り①(受講生A)
21	実践模擬授業と振り返り②(受講生B)
22	実践模擬授業と振り返り③(受講生C)
23	実践模擬授業と振り返り④(受講生D)
24	実践模擬授業と振り返り⑤(受講生E)
25	実践模擬授業と振り返り⑥(受講生F)
26	実践模擬授業の総括
27	指導と評価の一体化を目指すために
28	授業における ICT 活用の基礎
29	国語教育とメディア・リテラシー
30	まとめ 国語教育の課題と展望

科目名	情報科指導法	年次	3	単位数	4
授業期間	2024年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	天野 真由美				
クラス名					
授業目的と到達目標					
教育実習での確かな指導ができる学習指導案を作り上げることを目標とする。					
授業概要					
高等学校学習指導要領情報編を使って育成する生徒像を想定していかに指導していくのかを学ぶ。指導しやすいプログラミング言語を選びアクティビティーを取り入れた授業の組み立てができるようにする。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
学習指導案の作成 1			20%		
学習指導案の作成 2			20%		
学習指導案の作成 3			20%		
プレゼンテーション			40%		
教科書情報					
教科書1	実践 情報 1				
出版社名	開隆堂	著者名			
教科書2	Python1 年生				
出版社名	SHOEISHA	著者名	森 巧尚		
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	適宜紹介				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
東レ株式会社 ファッション企画部 デザイナーウェブデザイン(フリーランス): 病院関係: 京都府立医科大学循環器内科学教室、京都府立医大精神機能病態学、京都府立医大消化器内科学教室、京都府立医大長寿疫学講座、関西医科大学医学研究科、独立行政法人京都病院、ふじやまクリニック、社会福祉法人・風媒花、中島外科胃腸科、医療法人泰恵会・しばさきクリニック、のだこどもクリニック、新大阪腎疾患カンファレンス、日本酸化ストレス学会、関西医科大学大学院小児科学教室、医療法人日野医院、大阪骨粗鬆症を考える会、小林製薬					

通販サイト/他アパレルブランド:キュリアスジョージ、HISHIM、HangTen、ファミリア、TEHAMA(クリントイーストウッド)/他その他のジャンル:上方落語協会、日本聖公会奈良基督教会、日本聖公会京都教区、奈良友の会、シノワズリーモダン、呉服座/他

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	高等学校で数年前に始まった情報の授業の解説
2	情報科指導要領で情報の授業の内容確認をする。情報教育について。
3	情報1の基本構造。ポートフォリオを使った授業
4	情報デザインを理解する
5	情報デザインとコミュニケーション
6	画像、動画、画質、情報伝達について
7	情報デザインとアートの違い
8	ピクトグラムを使った実習
9	文字をデジタル化してみよう。
10	音のデジタル化について体験してみる。
11	楽なアルゴリズムを発見しよう。生徒にどう説明するか考える。
12	アルゴリズムとフローチャート
13	プログラミングで使う変数とは何か。
14	前期に学んだ内容で指導案を作成。
15	指導案のプレゼンテーション
16	Python 基礎
17	Python でデータ変換をする
18	Python でより複雑なデータを制作
19	Python で亀を出してみる
20	Python の亀で図形を描く
21	Python で亀に自分の苗字を描かせる
22	Python で亀に名前を描かせる。
23	Python の実習
24	問題の発見、解決に向けてプログラミングを効果的に活用する方法
25	グループ分けの授業の利点
26	学習指導要領に沿って学習指導案を作成
27	学習指導案の作成、チェック、ブラッシュアップ
28	別の指導案の作成
29	学習指導案の作成、チェック、ブラッシュアップ
30	指導案のプレゼンテーション、講評

科目名	特別活動指導法	年次	3	単位数	2
授業期間	2024年度前期	形態	講義		
教員名	加納 明彦				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>特別活動は「なすことによって学ぶ」を基調においた学びです。学校での様々な集団活動を通して、課題の発見や解決を経験する事で、自らが属す集団に貢献したいという意欲・態度とそのためのスキルを身につける事を目標にしている。学級活動、生徒会活動、学校行事を通じて「何ができるようになるのか」「何を学ぶか」「どのようにまなぶか」をふまえて、育成すべき資質・能力を知って特別活動への実践的な姿勢と企画力をつける事が目標です。</p>					
授業概要					
<p>対面での授業になります。「なすことによって学ぶ」というのが特別活動の特徴です。この授業は、受講者自身の実践を大事にします。同時に、特別活動は、広い分野の教育活動に繋がっています。広い視野で子どもの社会的な自立を支援する姿勢を育てるために、 ・グループ別に分かれてワークショップ形式で企画作りや発表などをおこなう。 ・外部からのゲストティーチャーの協力を得て実際の取り組みの課題を深める。 ・タイムリーな教材を入れるのでシラバスの変更することもあります。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ・授業に参加して一緒に考えることが一番大事です。欠席しないこと。 ・特に必要な場合は、事前に読んでおくべき教材を渡します。 ・グループで話し合う機会があります。積極的に参加してください。 ・平常点の中身は、授業ごとの振り返り課題、対話やワークへの参加度、数回ある「行事の企画案作り」等の課題も含まれます。 					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常点			50		
レポートによる試験			50		
教科書情報					
教科書1	特にありません。適時プリント配布				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	「中学校学習指導要領解説 特別活動編」				
出版社名	東山書房	著者名	文部科学省		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			

参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
対面での授業になります。			
教員実務経験			
<p>公立高校の教員として、総合学習・支援教育を中心に教育改革の実践に携わる。支援教育コーディネータ・指導教諭として学内外の教育活動、啓発活動にも従事してきた。また、福祉教育やボランティア活動の実践的研究にもかかわらず、地域交流活動、介護体験等の企画コーディネータもしている。</p>			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	特別活動の指導要領上の位置付けと教育目標を理解する。受講生それぞれの、これまでの学習経験を振り返り、どのような活動が、特別活動であったかを振り返る。特別活動が実際に展開される場が、学級活動・生徒会活動・学校行事であること、ここでの活動が学校全体の教育課程の遂行の中での重要な位置であることを理解させる。(基礎 1)		
2	新学習指導要領改訂による特別活動で育てたい資質・能力の具体について、従来の指導要領の「望ましい集団活動を通して」との教育目標の継承発展の視点で理解する。(基礎 2)		
3	改訂の中心となる考え方である「社会に開かれた教育課程」についてその意義と具体的な内容を理解する。地元の学校で活動している SSW やサポーターの実践例を知り社会に開かれた学校の意義を理解する。(基礎 3)		
4	特別活動の教育理念の基底にある「なすことによって学ぶ」の意味について、体験学習のプロセスの理解や、PDCA サイクルを学ぶことによって、特別活動のカリキュラムを効果的に構成するマネジメントの発想を学ぶ。(基礎 4)		
5	学級活動は、特別活動が展開される拠点である。学級は、生徒にとっては身近な社会生活と言える。学級づくりを通しての人間関係の築き方などを学ぶ。そこで育てた力が実社会に出ても活用できる力に繋がる。支持的風土の醸成された学級づくりに向けた学級活動の課題と目標について理解する。担任として育てておくべき資質態度について考察する。(学級活動 1)		
6	担任として育てておくべき、コミュニケーションスキルについて体験的に学ぶ。現在実践をおこなっている人の事例から、実際の高校現場で展開されている特別活動の内容を体験し、担任としての役割や関わりのあり方を考察する。(学級活動 2)		
7	担任が行う学級活動の“要”が、話し合い活動の指導であることに留意させる。合意形成のワークを受講者が体験することで、クラス全員が参加できる話し合いを作るには何が必要か考える。特別活動において「主体的・対話的で深い学び」を実践するアクティブラーニングの手法を知る。(学級活動 3)		
8	いじめが起きない、起こっても解決できる。そんな学級、学校を創り育てることは、社会からの要請である。いじめの問題を人間関係形成の視点から多様に分析し、クラスづくりに活用していく能力資質を育てるために、事例研究を通して、考察する。同時に、制定された「いじめ防止対策推進法」(平成 25 年)の趣旨を学び、虐待などととも、生徒の立場に立って問題解決に向かう資質態度について学ぶ。(学級活動 4)		

9	クラス作りにおいて求められている今日的な課題は、多様性の尊重である。従来の一斉指導的な関わり方ではなく、それぞれの生徒が持っている課題を具体的に知った上で、それを超えて互いを受容し合う関係性の構築が課題となる。この回では、発達障害のある生徒を受け入れるクラス作りの実践を考察することで多様性の受容について考える。(学級活動 5)
10	特別活動と各教科等との双方向の関係について理解する。特に「総合的な学習の時間」との共通点と相違について。特別活動の実施の中での道徳性の滋養を通じた「道徳」との関係、今回の改訂で強調されたキャリア教育との関係について具体的な実践を知り、理解する。(他の教科等との連携)
11	生徒会活動は、異年齢の生徒同士で諸課題の解決に向けて、計画、役割分担、協力して自主的・実践的に協働的にすすめられる特別活動である。その活動の意義について理解する。(生徒会 1)
12	ボランティア活動等の社会参画は、社会に開かれた教育課程を担う実践的教育活動と言える。それ以外にも考えられる地域社会と協働した取り組みの可能性について考察する。(生徒会 2)
13	学校行事は、全校または学年という大きな集団を単位として、生徒が喜びや苦労を分かち合いながら協力する体験的な活動である。大学生に聞くと、今までの学校生活で一番印象に残っているのは文化祭や合唱コンクール体育祭などの学校行事である事が多い。感動によって心を動かす経験が心に残るのである。そのような感動を共有できる学校行事の指導案作りについて考察する。(学校行事 1)
14	今までの学習をふまえて、あなたが考える望ましい学校行事について設定して指導案を作る。i , 題材と主なねらい ii ,育てたい力 iii ,どのように学ぶかを明確にする事を学ぶ。(学校行事 2)
15	特別活動で学んだ能力態度が以降の人生の中でどのように活かされていくのかについて考察する。よりよい社会作りや他者との協働的な活動の意味について、国民、市民として社会の中で積極的に集団生活を担う事の意味について考察する。(発展)

科目名	教職概論	年次	1	単位数	2
授業期間	2024年度前期	形態	講義		
教員名	土屋 尚子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>授業目的: 教職について理論、歴史、実践など複数の観点から学ぶことを通して、カリキュラムポリシーにある「複眼的、俯瞰的なものの見方を培う」ことを目的とする。</p> <p>到達目標: 教職について多角的な視点から説明することができる。</p>					
授業概要					
<p>教職について、現代社会における特質、存在意義、歴史的変遷、職務内容、資質能力など、多角的な視点で考察していく。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>予習: 授業テーマやサブテーマについて下調べした上で、自分自身の考えをまとめておく(2時間)</p> <p>復習: ノートをしっかり整理し、わからない用語は調べておく。授業で身につけた知識に基づき、自分自身の被教育体験を相対化してみる(2時間)</p> <p>準備学修(予習・復習)・受講上の注意: 毎授業終了後、小レポートを作成してもらう。あくまでも、その内容が評価対象であることに注意すること。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
期末レポート			55		
平常点: 毎授業時に作成する小レポートの内容、授業態度(私語、遅刻、学生証忘れ)等。			45		
教科書情報					
教科書1	指定しない。適宜、授業内で資料プリントを配布する。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	指定しない。適宜、授業内で紹介する。				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	教職に就くということ キーワード: 教師イメージ、専門家としての教師、教職への進路
2	現代の教師①「ゆとり」について知っておくべきこと キーワード: 学習指導要領、受験重視教育への反省、ゆとり教育政策、学力低下不安
3	現代の教師② 保護者、子どもとの関係 キーワード: モンスターペアレント、失敗できない子育てプレッシャー、お客様意識の高まり、保護者との連携・協力
4	現代の教師③ 教師の負担と多忙感 キーワード: バーンアウト、全人教育、教師の仕事の拡大、学校教育への期待の拡大
5	現代の教師④チーム学校 キーワード: 校教育の役割の拡大、問題解決能力の向上、業務改善、学校内外の連携
6	歴史にみる教師像①—教師聖職者観 キーワード: 聖職者養成、人格者、寺子屋、教職の誇り
7	歴史にみる教師像②—戦前の教員養成システム キーワード: 師範学校令、人物主義、師範タイプ、知識人
8	歴史にみる教師像③—戦後の教員養成システム キーワード: 戦後教育改革、閉鎖型、開放型、教師労働者観
9	歴史にみる教師像④—奉仕者としての教師 キーワード: 服務、四つの義務、身分保障、人材確保法
10	教師の仕事①—学習指導 キーワード: 学習指導要領、教科書検定制度、年間指導計画、単元指導計画、学習指導案
11	教師の仕事②—生徒指導 キーワード: 体罰、懲戒行為、正当防衛・行為、愛のムチ論
12	教師の仕事③—進路指導 キーワード: 若者の就労問題、キャリア教育、職場体験、労働者としての権利教育
13	教師の資質と能力①—教師に求められているものとは何か キーワード: 資質能力の向上、研修、教育公務員特例法、学び続ける教師
14	教師の資質と能力②—制度改革からみえるもの キーワード: 資質能力の刷新、免許更新制度、指導力不足教員問題
15	教師の資質と能力③—評価の時代の教師たち キーワード: 教員評価、教師の質の向上問題、授業評価、教職の自律性

科目名	情報メディアの活用	年次	カリキュラムにより 異なります。	単位数	2
授業期間	2024年度 前期	形態	講義		
教員名	松井 純子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
司書教諭に求められる情報メディア活用の基礎知識と実践的な技能を習得する。 (1)情報メディアの種類と特性について理解する。 (2)情報検索の知識と技能を習得する。 (3)パスファインダーの作成を通じて、情報活用能力の育成方法を具体的に把握する。					
授業概要					
インターネットと情報環境の進展を背景に、学校図書館に対して多様なメディアの活用が要請されている。また、児童・生徒の情報活用能力の育成も、学校図書館の重要な役割である。ここでは、情報メディアの種類と特性、情報検索の基礎などを述べた上で、多様な Web サイトやオンラインデータベースなどの検索演習を通じて、情報活用能力育成のための具体的方法を示す。さらにパスファインダーの作成を通じて、それらの具体化を図る。著作権や情報モラルに関わる問題も取り上げる。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
司書教諭は、教師として児童・生徒を指導する立場であることは言うまでもない。したがって、教師としての意識・自覚を持って受講すること。また、各回の授業テーマについて、受け身でなく、自分自身で考えるようにしてほしい。遅刻・欠席は厳禁。授業を 1/3 以上欠席したり、遅刻が頻回の場合は、単位を認定しない。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
パスファインダーの作成・提出・プレゼンテーション			50		
検索演習課題の提出			10		
平常点(ミニレポート、授業への取り組み姿勢)			40		
教科書情報					
教科書1	使用しない。プリントを配布。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	情報を学習につなぐ:情報・メディアを活用する学び方の指導体系表解説				
出版社名	全国学校図書館協議会	著者名	全国学校図書館協議会編		
参考書名2	「アロハ図書館タイム」はじめます。:鳥取・羽合小:司書教諭による学校図書館活用授業				
出版社名	全国学校図書館協議会	著者名	北田明美著		
参考書名3	学校図書館を活用する学び方の指導:課題設定から発表まで(新しい教育をつくる司書教諭のしごと1)				
出版社名	全国学校図書館協議会	著者名	宅間紘一著		
参考書名4	パスファインダーを作ろう:情報を探す道しるべ				
出版社名	全国学校図書館協議会	著者名	石狩管内高等学校図書館司書業務担当者研究会著		
参考書名5					

出版社名		著者名	
参考 URL			
{学校図書館の現状に関する調査,https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/dokusho/link/1360234.htm}{リフレット「学校図書館を、もっと身近で、使いやすく」,https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/03/22/1360321_4.pdf}			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	オリエンテーション学校図書館の現状:文部科学省の調査結果をもとに		
2	教育の情報化と学校図書館		
3	学習指導要領における学校図書館と司書教諭		
4	情報活用能力の育成と学校図書館 ・情報活用能力とは ・情報活用能力の育成と情報リテラシーモデル:「情報・メディアを活用する学び方の指導体系表」「ビッグ6」		
5	情報メディアの種類と特性(1) ・鳥取・羽合小「学び方指導の内容体系表」を参考に ・パッケージ系メディア(印刷メディア、視聴覚メディア、電子メディア)とネットワーク系メディア(インターネット、オンラインデータベース)		
6	情報メディアの種類と特性(2)情報メディアの収集 ・保存 ・提供とその特徴		
7	学校図書館とコンピュータの活用		
8	調べ学習とインターネットの活用(1) ・情報検索とインターネット ・検索エンジンの特性と検索機能 ・検索演習		
9	調べ学習とインターネットの活用(2) ・各種検索サイトの活用 ・検索演習		
10	調べ学習とインターネットの活用(3) ・オンラインデータベースの検索 ・検索演習		
11	パスファインダーの作成(1) ・パスファインダーとは何か ・パスファインダーの事例		
12	パスファインダーの作成(2) ・パスファインダー作成の実際(キーワードの選定、情報源の種類と選択、書誌記述の方法)		
13	学校図書館と著作権(1)著作権法概説		
14	学校図書館と著作権(2)学校教育と著作権		
15	パスファインダーの作成(3) ・作成したパスファインダーについてプレゼンテーション		

科目名	美術科指導法 I	年次	2	単位数	2
授業期間	2024 年度 前期	形態	講義		
教員名	松山 明				
クラス名	【19以降生対象】				
授業目的と到達目標					
<p>「美術教育」には二つの意味が含まれている。「美術の教育」と「美術による教育」すなわち美術という「技術」教育と、美術という「芸術」を通じての人間形成である。</p> <p>美術科指導法 I では美術教育に関する基礎知識の学びや模擬授業を通して中学校・高等学校の美術科の指導のあり方を考える。作品制作を通して評価・評定を考察する。作品鑑賞会を通して主体的・対話的で深い学びが創造できる資質の向上を図る。</p>					
授業概要					
<p>中学校学習指導要領解説美術編・高等学校学習指導要領解説芸術編、美術編を理解し、適切な指導と評価計画が作成できる資質の獲得をめざす。</p> <p>美術の表現の知識・技能や鑑賞指導の教材研究と指導方法、及び生徒の学習意欲を高める評価方法の研究活動を推進する。</p> <p>また、美術資料等を活用し美術史の専門性を高めるため、国内外の美術作品や文化遺産についての理解を深め、鑑賞授業の進め方を研究する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>学習指導要領の教科の目標の理解(1H)</p> <p>教科書研究で年間指導計画を作る(1H)</p> <p>題材ごとの学習評価を学ぶ(1H)</p> <p>などを通じてわかりやすい授業づくりを常に考える習慣をつける。美術科教員としての専門性を高めるという意識を持って授業に参加する。授業開始には遅刻せず、はじめと終わりの挨拶はきちりで行う。求められる教師像となる資質の獲得をめざして根気よく取り組む。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
美術教育レポート(美術科年間指導計画、指導したい美術の授業等)			20%		
美術科学習指導案(わかりやすい美術の授業と評価を考える)			10%		
模擬授業の評価(授業評価シートを活用していろいろな授業を学ぶ)			10%		
美術科自己進捗評価の記録、完成作品の鑑賞シート、授業の目標の到達度を自己評価する学習のまとめ、制作した作品点等			25%		
期末筆記試験(美術科指導法 I の授業内容の理解度をはかりシラバス 改善のために活用する)			35%		
教科書情報					
教科書1	中学校学習指導要領解説美術編				
出版社名	日本文教出版 株式会社	著者名	文部科学省		
教科書2	日文・美術 1 美術との出会い ・美術 2,3 上 学びの実感と広がり 美術 2,3 下 学びの探求と未来				
出版社名	日本文教出版株式会社	著者名	村上尚徳 他 6 名		
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					

参考書名1	美術資料(大阪府版)		
出版社名	株式会社 秀学社	著者名	京都市立芸術大学 美術教育研究会
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
中学校美術科教諭 大阪市教育委員会指導部 中学校教育課 指導主事 大阪市立中学校校長 日本教育美術連盟名誉理事			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	美術科指導法 I の授業目的と到達目標を理解する。中学校学習指導要領美術編の教科の目標、指導計画 作成上の配慮事項について理解し、わかりやすい美術科学習指導案を作成する。		
2	教科書の研究。美術 1 美術との出会い、美術 2,3 上 学びの実感と広がり、美術 2,3 下 学びの探求と未来を研究し、表現および鑑賞の調和がとれた美術科年間指導計画案を作成する。		
3	美術科学習指導案の作成の基礎を学ぶ。題材設定の理由、指導目標、指導計画、評価規準、準備物、指導過程など、美術科学習指導案の作成についての考え方を確実に理解する。		
4	パソコンを活用して、私の考える「美術科学習指導案」の研究と作成を進める。 教育実習・校種の 美術科学習指導案を完成し時間厳守で提出する。授業での導入時の話し方、板書・掲示計画を考える。		
5	模擬授業1 ⇒ 提出された美術科学習指導案や資料などで『美術科学習指導案集』を作成する。 指導案をに模擬授業を行う。模擬授業評価シートをもとに授業研究と評価を行う。		
6	模擬授業2 ⇒ 学習指導案の模擬授業を行う。 受講者は評価シートで他者の模擬授業を評価する。 模擬授業は表現・鑑賞の領域、パソコン・視聴覚機器の活用グループで班分けを行い実施する。		
7	模擬授業3 ⇒ 学習指導案をもとに模擬授業を行う。 受講者は指導案集に気付きを記録し研究に努める。 授業の導入時の説明は、パワーポイントやスマートフォンの画像拡大で行うのもよい。		
8	模擬授業4 ⇒ 学習指導案をもとに模擬授業を行う。 受講者は評価シートで他者の模擬授業を評価する。 第4週は予備日として設定する。 。全員の模擬授業時に指導案の改善点や授業進行について協議する。		
9	作品制作と評価1⇒ 7世紀ごろに朝鮮半島から伝えられた屏風。部屋の仕切りや風よけの役割とともに美しい絵が描かれ、美術品としても愛された。屏風ならではの美しさや工夫について考え制作する。		
10	作品制作と評価2⇒ 教科書 美術 1 美術との出会い 折り曲げて味わう 屏風美のしかけを参考に屏風の構図、余白、折りによる空間や表現などについて注目し、その効果を捉える。		
11	作品制作と評価3⇒ 屏風の作品制作を通して美術科の指導と評価について考える。		

	美術科・自己進捗評価の記録カードを活用して、制作の進捗状況と制作態度を自己評価する。
12	作品制作と評価4 ⇒ 屏風の制作を通して美術科の指導と評価について考える。 美術科学習の記録（学習のまとめ）を活用し、制作過程ごとの目標に対して自己評価を行い、美術の学習を振り返る。
13	作品制作と評価5 ⇒ 作品鑑賞会。 鑑賞シートを活用して自分の作品の工夫点・努力点をまとめる。 展示し自己作品を簡潔に説明する。 全員の作品を鑑賞し心惹かれた作品を選んで味わい学びを深める。
14	美術科の学習指導と評価について振り返り学習をする。 期末筆記試験 ⇒「美術科指導法Ⅰ」の授業内容 について理解度をはかる。
15	期末筆記試験の返却。「美術科指導法Ⅰ」の授業を振り返り、美術科教員の専門性について理解する。後期、美術科指導法Ⅱの授業について予告を聞く。美術館の鑑賞など、鑑賞学習について理解する。

科目名	美術科指導法Ⅱ	年次	2	単位数	2
授業期間	2024年度 後期	形態	講義		
教員名	松山 明				
クラス名	【19以降生対象】				
授業目的と到達目標					
<p>「美術教育」には二つの意味が含まれている。「美術の教育」と「美術による教育」すなわち美術という「技術」教育と、美術という「芸術」を通じての人間形成である。</p> <p>美術科指導法Ⅱでは美術科教育に関する基礎知識の学びと、模擬授業を通して中学校・高等学校の美術科の指導方法の理解を深める。</p> <p>また、美術史の学習と鑑賞映像の視聴で鑑賞教育を考察する。表現・鑑賞の美術科学習指導案を作成しわかりやすい授業と評価が創造できる資質を高める。</p>					
授業概要					
<p>中学校学習指導要領解説美術編・高等学校学習指導要領解説芸術編・美術編をよく理解し、適切な指導と評価計画が作成できる資質の獲得をめざす。美術の表現の知識・技能や鑑賞指導の教材研究と、指導方法及び評価方法の研究活動を推進する。美術史の専門性を高めるために、鑑賞指導のビデオやDVDの視聴を通じて、国内外の代表的な美術作品についての理解を深め、鑑賞の授業の進め方を研究する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>学習指導要領の理解(1H)</p> <p>学習評価についての理解(1H)</p> <p>美術科学習指導案の正しい作成(1H)</p> <p>等の参考資料や資料収集を丁寧に行い、授業研究に有効に活用する。</p> <p>わかりやすい授業づくりはどう取り組むかを常に考える習慣をつける。</p> <p>美術科の専門性を高めると意識を持って授業に参加する。</p> <p>授業開始には遅刻せず、はじめと終わりの挨拶をきちりで行う。</p> <p>美術教師に求められる資質の獲得をめざして根気強く取り組む。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
美術教育レポート(美術教育で育てる学力, 美術教育の必要性)			20%		
美術科学習指導案(鑑賞領域および表現領域の美術科学習指導案)			10%		
模擬授業の評価点(模擬授業の評価シートの活用)			10%		
自己進捗評価の記録、作品鑑賞シート、美術科学習のまとめ、作品点			30%		
授業内筆記試験			30%		
教科書情報					
教科書1	中学校学習指導要領解説美術編				
出版社名	日本文教出版 株式会社	著者名	文部科学省		
教科書2	日文・美術 1(美術との出会い)・美術 2.3 上(学びの実感と広がり)・美術 2.3 下(学びの探求と未来)				
出版社名	日本文教出版株式会社	著者名	村上尚徳 他6名		
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	美術資料(大阪府版)				
出版社名	株式会社 秀学社	著者名	京都市立芸術大学 美術教育研究会		

参考書名2	美術教育概論(新訂版)		
出版社名	日本文教出版 株式会社	著者名	大橋 功、新関 伸也、松岡 宏明、藤本陽三 佐藤 賢司、鈴木 光男、清田 哲男
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
中学校美術科教諭 大阪市教育委員会指導部 中学校教育課指導主事 大阪市立中学校校長 日本教育美術連盟名誉理事			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	美術科教員に求められる資質 ⇒ 教員採用試験の概要を知る。美術科教員の専門性と資質を理解する。 学習指導要領解説美術編を熟読しこれからの美術教育を考える。表現と鑑賞の教育の大切さを理解する。		
2	美術科の鑑賞教育の進め方1 ⇒ 日本・西洋の美術作品を鑑賞しこれからの鑑賞教育について考える。 教科書、美術 2.3 上学びの実感と広がり、美術 2.3 下学びの探求と未来を参考に鑑賞教育について考える。		
3	美術科の鑑賞教育の進め方2 ⇒ 日本の美術作品を鑑賞しこれからの鑑賞教育を考える。教科書、美術 2・3 上 学びの実感と広がりを参考に鑑賞教育について考える。絵巻物の世界を体験しよう。		
4	鑑賞教育を考える 1 ⇒ 絵巻物の制作を通じて、表現と鑑賞のあり方と美術科の評価について考える。 主題を創造し、日本の平安時代末からつくられはじめた絵巻物の世界を表現しながら評価を考えよう。		
5	鑑賞教育を考える2⇒ 鳥獣人物戯画などを参考に現代の漫画やアニメーションに通ずる表現を考える。 これまでのあなたの生活の中で、印象的な場面や瞬間などを、絵巻物にして表現してみましょう。		
6	鑑賞教育を考える3 ⇒ 絵巻物に表現に使用する描画材料は、筆やペンを使用しましょう。 巻物は和紙であることを考え、にじみや乾きについても十分に注意して表現及び彩色についても工夫しましょう。		
7	鑑賞教育を考える4⇒ 絵巻物の完成作品を鑑賞する。展示シートに氏名を記入し、作品を展示する。 作品鑑賞シートに作品の表現の工夫点、創造性を記入する。作品の簡潔な説明後に作品鑑賞を行う。		
8	美術科学習指導案の作成 ⇒ 教科書・美術資料などを参考に、美術科学習指導案を作成する。 もう一度、学習指導要領の教科の目標を確認し、楽しい美術科学習指導案を作成する。締切の期限を守り提出する。		

9	美術科の模擬授業1 ⇒ 提出された指導案で「学習指導案集」を作成する。指導案を参考に模擬授業を行う。 受講者は授業評価シートで授業を評価する。パワーポイントなど視聴覚機器の活用する。
10	美術科の模擬授業 2 ⇒ 各自が模擬授業を行う。受講者は模擬授業評価シートを活用し授業を評価する。 導入の展開は、スライドショーの活用など、わかりやすい授業の導入・展開を工夫する。
11	美術科の模擬授業3 ⇒ 各自が模擬授業を行い、受講者は授業を評価する。 導入は参考作品を提示するなど、活動意欲を呼び起こす工夫を行う。ワークシートなどの活用を工夫する。
12	美術科の模擬授業 4⇒ 各自が模擬授業を行い、受講者は授業を評価する。 スマートフォンの映像等を書画カメラで活用し、生徒がわかりやすい導入を工夫する。板書計画、参考作品の提示の工夫を行う。
13	美術科の鑑賞教育 ⇒ 19世紀末、20世紀初頭にかけて西洋で巻き起こったジャポニズムは、モネ、ホイッスラーなど印象派の画家に大きな影響を与えた。 浮世絵が世界の美術史に与えた衝撃を探る。
14	これからの美術教育 ⇒ 美術科の鑑賞教育の進め方を考える。 「分析批評」による名画の鑑賞の授業、対話型の鑑賞教育など展開の仕方を学ぶ。授業内期末試験。
15	美術教育の変遷とこれからの美術教育 ⇒ 生活や社会の中で美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成する美術教育をどのように創造するのかを考える。

科目名	音楽科指導法 I	年次	2	単位数	2
授業期間	2024 年度 前期	形態	講義		
教員名	尾張 佳子				
クラス名	【19以降生対象】				
授業目的と到達目標					
【授業目的】・学習指導要領に則り、音楽科教育の指導内容について理解する ・指導内容に基づき、指導と評価の一体化を図り、指導法の充実を図る ・学習指導案やレポートの作成を通して教員に求められる資質能力の向上を図る 【到達目標】・表現および鑑賞領域において授業構成のための基礎基本を習得する					
授業概要					
[対面授業]・学習指導要領の理解 ・学習指導案の作成 ・実技指導法「歌唱・器楽」の習得					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
・音楽科教育の基礎知識の習得と実践を通して音楽科指導法について理解する ・A 表現: 歌唱は共通教材等のピアノ伴奏および模唱を習得する ・A 表現: 器楽は模範演奏技能を習得する					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
実技テスト・指導案・模擬授業・レポート・提出物等			70		
平常点			30		
教科書情報					
教科書1	中学校学習指導要領解説―音楽編				
出版社名		著者名	文部科学省		
教科書2	中学音楽 音楽のおくりもの 1/2・3 上下 中学器楽				
出版社名		著者名	教育出版		
教科書3	中学生の音楽 1/2・3 上下 中学生の器楽				
出版社名		著者名	教育芸術社		
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験	
元中学校校長(音楽科)がその実務経験を活かして授業する	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	学習指導要領解説 音楽編の理解①
2	学習指導要領解説 音楽編の理解②
3	学習指導要領解説 音楽編の理解③
4	学習指導要領解説 音楽編の理解④
5	A表現 歌唱指導の習得①
6	A表現 歌唱指導の習得②
7	学習指導要領 音楽編の理解(「共通事項」について)
8	学習指導計画の理解①(授業づくりについて)
9	学習指導計画の理解②(授業づくりについて)
10	学習指導案の作成演習「歌唱」①(題材の設定)
11	学習指導案の作成演習「歌唱」②(指導の流れ・「めあて」について)
12	学習指導案の作成演習「歌唱」③(「導入・展開・振り返り」時間配分等について)
13	学習指導要領音楽編の理解(「共通事項」小中学校の連携について)
14	A表現 歌唱指導の習得
15	A表現 器楽指導の習得

科目名	音楽科指導法Ⅱ	年次	2	単位数	2
授業期間	2024年度 後期	形態	講義		
教員名	尾張 佳子				
クラス名	【19以降生対象】				
授業目的と到達目標					
<p>【授業目的】・学習指導要領に則り、音楽科教育の指導内容について理解する ・指導内容に基づき、指導と評価の一体化を図り、指導法の充実を図る ・学習指導案作成等を通して教員に求められる資質能力の向上を図る 【到達目標】・表現および鑑賞領域において授業構成のための基礎基本を習得する</p>					
授業概要					
<p>[対面授業]・学習指導要領の理解・学習指導案の作成 ・「主体的・対話的で深い学び」の実践・実技指導法の充実・評価についての理解 ・授業内容の理解と定着は確認テストで行う</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>・音楽科教育の基礎知識の習得と実践を通して音楽科指導法について理解する ・A 表現: 歌唱は共通教材のピアノ伴奏および模唱を習得する</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
実技テスト・指導案・模擬授業・レポート・提出物・確認テスト等			70		
平常点			30		
教科書情報					
教科書1	中学校学習指導要領解説―音楽編				
出版社名		著者名	文部科学省		
教科書2	中学音楽 音楽のおくりもの 1/2・3 上下 中学器楽				
出版社名		著者名	教育出版		
教科書3	中学生の音楽 1/2・3 上下 中学生の器楽				
出版社名		著者名	教育芸術社		
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

元中学校校長(音楽科)がその実務経験を活かして授業する	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	評価について①(目標に準拠した評価)
2	評価について②(観点別評価)
3	評価について③(評価方法実践演習)
4	歌唱指導法について(模範演奏確認テスト①)
5	学習指導案の作成演習「鑑賞」①(題材の設定)
6	学習指導案の作成演習「鑑賞」②(指導内容の確認)
7	学習指導案の作成演習「鑑賞」③(「めあて・展開・振り返り」について)
8	和楽器の指導について①
9	和楽器の指導について②(実践事例作成)
10	創作領域の指導法について(具体例による実践演習)
11	確認テスト
12	主体的・対話的で深い学びの実践について(表現領域:歌唱)
13	主体的・対話的で深い学びの実践について(表現領域:器楽)
14	主体的・対話的で深い学びの実践について(鑑賞領域)
15	音楽科指導法 I の総括

科目名	道徳指導法	年次	2	単位数	2
授業期間	2024年度前期	形態	講義		
教員名	小山 久子				
クラス名	20927 道徳指導法				
授業目的と到達目標					
<p>「特別の教科 道徳」は道徳教育の補充・深化・統合の場であり、全体計画・指導計画に則り展開されていることを知る。即ち、35分の1の授業は、学校教育活動全体と関わって実施されるべきものであるというカリキュラムマネジメントの視点を知る。その上で、「考え議論する道徳」の授業とはどのようなものかを実践的に試し、指導力を身に付ける。</p>					
授業概要					
<p>「特別の教科 道徳」の必要性およびそのあり方について、理論的に検討すると共に、それに則した授業展開について学ぶ。現代的な課題も踏まえた教材開発、指導案作成、模擬授業を繰り返すことによって実践的な指導力を身に付ける。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>授業ごとに配布された資料・教材は、熟読しておくことが望ましい。日々の生活の中で起こる事象、いじめ問題・国際理解・環境問題等現代的な課題において、道徳科教材となり得るものについて研究を進めておく。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
ペーパーテスト			30		
指導案作成			40		
各授業の感想文			30		
ワークシート等の提出物					
教科書情報					
教科書1	中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編				
出版社名	文部科学省	著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験	
<p>小学校教諭時は、道徳部会に所属し、長年道徳教育および道徳科授業実践を行ってきた。また、堺市教育委員会(教育センター所長等)に在任中は、道徳教育をはじめ教員研修に携わった。さらに、本学においては、教育現場(小学校)で道徳教育の評価方法に関わる実践的研究を行っている。このような経験を生かして、本授業においては、道徳教育の重要性を知ることを通して、子どもの見方・道徳科授業のあり方について思考し、実践に向かう意欲を育む。</p>	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	<p>「道徳教育は必要ですか?」① ・自らが受けた道徳教育・道徳科を振り返ったり、改めて道徳教育・道徳科の例示を見たり、模擬体験したりすることによって、道徳教育、道徳の授業の必要性について議論すると共に、これからの道徳教育のあり方を探る。</p>
2	<p>「道徳教育は必要ですか?」② ・道徳教育の歴史について知ることを通して、学習指導要領解説道徳編を活用しながら、これまでの道徳がもつ課題や新しい道徳への期待について考える。</p>
3	<p>「道徳教育は必要ですか?」③ ・道徳性の発達について発達心理学の観点から理解すると共に、道徳教育および道徳科のねらい、課題など、道徳教育の基礎的知識について深く理解する。</p>
4	<p>「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」① ・学習指導要領解説を活用しながら、道徳教育および道徳科の目標、内容項目、全体・年間計画等について理解すると共に、授業ビデオを視聴することによって、授業の具体的なイメージを持つ。</p>
5	<p>「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」② ・教師がどんな思いを持って授業に望んでいるのかをビデオ視聴することによって理解すると共に、実際の指導と指導案の関係について知る。</p>
6	<p>「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」③ ・自分が属する学科での学修や日頃の興味関心(現代的課題)を生かして生徒が興味をもつだろうと思う教材の開発可能性を探る。</p>
7	<p>「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」④ ・自分が属する学科での学修や日頃の興味関心(現代的課題)を生かして教材開発する。開発した教材を活用した授業の可能性を探る。</p>
8	<p>「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」⑤ ・開発した教材を使った授業のあり方を検討し、指導案を作成(簡易版)する。</p>
9	<p>「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」⑥ ・前時の指導案を活用して模擬授業をする。これまでの学習を振り返ると共に確認の試験をする。</p>
10	<p>「模擬授業に挑戦しよう。」① ・既成の教材数種から一種選択し、指導案づくりについて学習する。・教材研究を行う。</p>
11	<p>「模擬授業に挑戦しよう。」② ・選んだ教材をもとに、指導案づくりを体験する(子どもが主体的に取り組める授業展開とはどのようなものなのか話し合い、工夫する)。</p>
12	<p>「模擬授業に挑戦しよう。」③ ・選んだ教材をもとに指導案づくりを体験する(主題名(内容項目)、主題設定の理由、指導観、本時のねらい、指導の流れ、評価等について検討する)。</p>
13	<p>「模擬授業に挑戦しよう。」④ ・各自作成した指導案を活用して授業のあり方について、同教材を使用する履修者どうしが集まり、検討し合う。</p>
14	<p>「模擬授業に挑戦しよう。」⑤ ・異なる教材を使用する履修者どうして、模擬授業を行う。</p>
15	<p>模擬授業を振り返り、授業のあり方について検討すると共に、これまでの学習全体を振り返る。</p>

科目名	教育方法論	年次	2	単位数	2
授業期間	2024年度 前期	形態	講義		
教員名	西中 華子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
子どもたちが「生きる力」を身につけ、これからの社会に適応していくために必要となる資質や能力を育成するために必要な教育方法や学級経営の技術などに関する基礎的な知識を身につけることを目的とする					
到達目標①:教育方法の基礎的な知識・技術を理解すること					
到達目標②:教育目的に適した教育方法, 指導方法を理解すること					
到達目標③:子どもたちに必要となる資質や能力育成のために適した教育方法・指導方法を選択できるようになること					
授業概要					
教育方法や指導方法(技術)の基礎的事項, 教育方法の種類や意義について解説を行います。また専門的内容にとどまらず, 子どもの教育について新しい発見があるような身近な内容も扱います。なお講義内容や進度は, 受講生の理解度や授業態度・姿勢に応じて変更することがあります。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
毎回の授業後, 復習としてノートをまとめておくことをおすすめします。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
定期試験			70%		
授業内で行う小テスト			30%		
教科書情報					
教科書1	よくわかる教育原理				
出版社名	ミネルヴァ書房	著者名	汐見稔幸・伊東 毅・高田文子・東 宏行・増田修治		
教科書2	よくわかる学校教育心理学				
出版社名	ミネルヴァ書房	著者名	森 敏昭・青木多寿子・淵上克義		
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
公認心理師，小学校非常勤講師としての実務経験を活かした講義を行う。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	イントロダクションと導入 (授業の進め方，成績評価方法の説明，導入課題)
2	授業づくりの基礎① (授業という世界，経験主義の教育と系統主義の教育，「わかる授業」と「たのしい授業」，教科指導と生活指導)
3	授業づくりの基礎理論② (個別化と協同化，授業を構成する要素，技術化と芸術化)
4	学習理論と学習指導① (21世紀型学力とはなにか，自ら学び自ら考える力の育成，知識活用力の育成，持続可能な学力の育成)
5	学習理論と学習指導② (家庭・地域に開かれた学習，個人差に応じた学習指導，発達段階に応じた学習指導，共に学び合う力の育成)
6	カリキュラムと教授法① (プログラム学習，意味受容学習，発見学習，体験学習)
7	カリキュラムと教授法② (総合学習，ディベートによる学習，プロジェクト学習)
8	カリキュラムと教授法③ (互恵的学習，CSCL，WISE，投錨された学習，5次元プロジェクト，認知カウンセリング)
9	各領域，各教科における授業づくり
10	教育評価 (教育評価の歴史，絶対評価と相対評価，絶対評価とルーブリック評価，絶対評価のモデル)
11	子どもたちへの支援① (心理教育的援助サービス，いじめの実態とその対応，不登校の実態とその対応，発達障害の実態とその対応)
12	子どもたちへの支援② (積極的行動支援，認知行動主義のアプローチ，カウンセリングと教育相談)
13	子どもたちへの支援③ (スクールカウンセリングとスクールカウンセラー，ストレスマネジメント教育，構成的エンカウンターグループ)
14	子どもたちへの支援④ (ソーシャルサポート，ピア・サポート，協同学習，キャリア発達支援)
15	これまでのまとめ

科目名	教育相談	年次	3	単位数	2
授業期間	2024年度 前期	形態	講義		
教員名	西中 華子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>今日学校現場で起こっている様々な問題について、心理学や教育相談の観点から捉える能力を身につけ、多職種と連携してアプローチする視点を身につけることを目的とする。</p> <p>到達目標 1: 教育相談の理論と方法について理解すること</p> <p>到達目標 2: 教師を始めとした対人援助職に求められる臨床的視点を身につけること</p> <p>到達目標 3: 子どもの発達状況を理解し、それに対してどのような支援を行うことができるかを提案できるようになること</p> <p>到達目標 4: 子どもの保護者の立場や思いについて想像し、どのような支援を行うことができるかを提案できるように</p>					
授業概要					
<p>教育相談の理論及び方法について講義形式で解説を行います。加えて、学校を含む様々な場面で出会う子ども及びその保護者の困り感に、どのように対処、支援していく必要があるのかをグループワークやロールプレイを交えながら考えていきます。なお講義内容や進度は、受講生の理解度や授業態度・姿勢に応じて変更することがあります。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>グループワークやロールプレイを行う上で、発達心理学分野や教育心理学分野の知識が必要となる場合がありますので、必要に応じて読んでおくべき文献などを指示します。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
定期試験			60%		
授業内で取り組む課題(小レポート)			40%		
教科書情報					
教科書1	【改訂版】教育相談ワークブッケー子どもを育む人になるために一				
出版社名	北樹出版	著者名	桜井 美加・齋藤 ユリ・森平 直子		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	生徒指導提要				
出版社名		著者名	文部科学省		
参考書名2	臨床家のための DSM-5 虎の巻				
出版社名	日本評論社	著者名	森 則夫・杉山登志郎・岩田泰秀(編・著)		
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
公認心理師, 小学校非常勤講師としての実務経験を活かした講義, 演習を行う。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	イントロダクションと導入 (授業の進め方, 成績評価方法の説明, 導入課題)
2	学校における教育相談の位置づけと意義, 校内システムと専門職及び専門機関との連携
3	教師に求められる臨床的視点 (カウンセリング・マインド, 受容することと指導すること)
4	教育相談に活用できるカウンセリング技法
5	乳幼児期の発達と発達相談, 乳・幼児期の保護者への支援の在り方
6	児童虐待問題と指導・支援, 愛着障害とは
7	児童期の発達と教育相談
8	発達障害についてのとらえ方と対応①(講義形式)
9	発達障害についてのとらえ方と対応②(GW 形式), 児童期の保護者への支援の在り方
10	思春期・青年期の発達と教育相談, 思春期・青年期の保護者への支援の在り方
11	摂食障害・自傷行為の理解と支援, 「性の問題行動」に対する理解と指導・支援
12	暴力・いじめ問題と指導・支援
13	予防・開発的取り組みと教育相談 (グループエンカウンター, ストレスマネジメントなど)
14	教師のメンタルヘルスと教師支援
15	これまでのまとめ

科目名	美術科指導法Ⅲ	年次	3	単位数	2
授業期間	2024年度 後期	形態	講義		
教員名	松山 明				
クラス名	【19以降生対象】				
授業目的と到達目標					
<p>中学校学習指導要領美術編の教科の目標には「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、創造的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す」と示されている。</p> <p>美術科指導法Ⅲでは、美術科教育に関する基礎知識の学びと実践研究を通して中学校・高等学校の美術科指導の理解を深め、模擬授業や相互鑑賞会を通じて、主体的・対話的で深い学びが実践できる資質の獲得をめざす。</p>					
授業概要					
<p>4年次の教育実習が円滑に進行するよう、中学校・高等学校の学習指導要領の教科の目標を理解し、適切な学習指導案の作成と学習評価が計画できる資質の獲得をめざす。</p> <p>美術表現の知識・技能を深め、作品制作を通じた指導と評価についての研究活動を推進する。</p> <p>美術史の専門性を高めるため、国内外の美術作品や文化遺産等の美術史的知識と現代美術に関する知識の習得を図る。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>学習指導要領の教科の目標の理解(1H)</p> <p>指導計画の作成と内容の取扱い(1H)</p> <p>学習評価の理解(1H)</p> <p>教科書を参考にした指導案研究(1H)</p> <p>等を通して表現と鑑賞の正しい学習指導案が作成できる資質の獲得をめざす。</p> <p>作品の制作を通して観別評価、評価の場面など指導と評価について理解を深める。</p> <p>美術科教員の専門性を深めるため国内外の代表的な美術作品についての理解を深める。</p>					
成績評価方法・基準					
種別		割合(%)			
美術科学習指導案(表現・鑑賞領域の美術科学習指導案)		10%			
模擬授業の評価点(模擬授業の評価シートの活用)		10%			
自己進度評価の記録、篆刻のアイデアスケッチ、篆刻の捺印、学習のまとめ、観賞シート、篆刻作品点		35%			
美術教育レポート(美術教育が育てる学力,美術教育のこれから)		10%			
授業内筆記試験		35%			
教科書情報					
教科書1	中学校学習指導要領解説美術編				
出版社名	日本文教出版株式会社	著者名	文部科学省		
教科書2	日文・高校生の美術Ⅰ				
出版社名	日本文教出版株式会社	著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	美術資料(大阪府版)				
出版社名	株式会社 秀学社	著者名	京都市立芸術大学美術教育研究会		
参考書名2					
出版社名		著者名			

参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
中学校美術科教諭 大阪市教育委員会指導部 中学校教育課指導主事 大阪市立中学校校長 日本教育美術連盟名譽理事			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	美術科指導法Ⅲの授業目標と到達目標を知る。授業の方針と授業の概要について理解する。学習指導要領・美術編を学ぶ。美術科の目標を理解する。		
2	美術科の目標、題材設定の理由のわかりやすい美術科学習指導案を作成する。パソコンを活用し、読みやすく、理解しやすい学習指導案を作成する。ワークシートや補助資料を添付するの也不错い。		
3	模擬授業 1 ⇒ 作成した学習指導案をもとに模擬授業を行う。他者の模擬授業を 5 段階で評価する。PC スライドショー、視聴覚機器の活用、参考資料提示 等の グループ分けを行い円滑に進行する。		
4	模擬授業 2 ⇒ 作成した学習指導案をもとに模擬授業を行う。他者の模擬授業を 5 段階で評価する。様々な美術科学習指導案を参考に、美術科の指導と評価を考える。		
5	模擬授業 3 ⇒ 作成した学習指導案をもとに模擬授業を行う。他者の模擬授業を 5 段階で評価する。導入時の話し方、参考作品の提示。展開時の生徒の学習活動をどう支援するかを考える。		
6	模擬授業 4 ⇒ 作成した学習指導案をもとに模擬授業を行う。予備日。美術科学習指導案の記入の仕方や評価の観点、評価の場面等を指導案に反映する。展開時の生徒への励ましの言葉や机間指導を考える。		
7	篆刻をつくる1 ⇒ 作品制作をとおりして評価の観点を盛り込んだ美術科学習指導案の作成を考える。美術科自己進捗評価の記録 (Fine arts check card) に記入することで毎週の学習態度を自己評価する。		
8	篆刻をつくる2 ⇒ 作品の制作を通過して完成した作品点のみならず、篆刻印面デザイン、印面のためし 押しなどを通過して彫りを修正するなど、制作過程の生徒の努力や工夫点などを評価することを学ぶ。		
9	篆刻をつくる3 ⇒ 自ら作品を制作することで評価を考える。篆刻制作の学習の流れを 10 段階に整理し制作過程の目標を明確にする。(10 段階ステップ学習) 毎時間の制作態度を自己評価する。		
10	篆刻をつくる 4 ⇒ 授業での参考作品の提示や自己進捗評価の記録など、総合的な評価について考える。ワークシートの活用研究。美術科学習の記録に記入することで、題材の振り返りや学習のまとめを行う。		
11	篆刻をつくる 5 ⇒ 篆刻作品相互鑑賞会を行う。観賞シートに記入し篆刻作品の工夫点や制作意図を語る。		

	篆刻作品を相互鑑賞し、心惹かれた作品を選び付箋を貼る。選ばれた作者は自己作品を語る。
12	美術鑑賞教材の研究1 ⇒ 日本・西洋美術のながれや、鑑賞のDVD映像による鑑賞授業や美術館におけるギャラリートーク、対話型鑑賞について学ぶ。
13	美術鑑賞教材の研究2 ⇒ 日本の美術、浮世絵作品の研究の Japonism について学ぶ。DVD映像による鑑賞授業や美術館における対話型鑑賞を学ぶ。
14	美術科指導法Ⅲの振り返り ⇒ 授業、今後の鑑賞教育のあり方について。 授業内期末試験 ⇒ 美術科指導法Ⅲの理解度をはかり、今後の授業改善に活用する。 期末試験は指導法Ⅲの授業内容から出題する。
15	美術や美術文化を学び、豊かな人生を送るために美術科として育てる力と美術教育について考える。 美術教育研究者からの、造形表現・図画工作・美術教育への言葉を学ぶ。教育実習への準備と留意点。

科目名	特別支援教育理論	年次	2	単位数	2
授業期間	2024年度 後期	形態	講義		
教員名	家門 鉄治				
クラス名	【19以降生対象】				
授業目的と到達目標					
特別支援が必要とはどういうことか、適切な支援をするために必要な理解とは何かなど、特別支援教育の基本について学び、具体的な事例を通してさまざまな支援についての理解を深め、実際の現場で役に立つ知識を身につけ、障害のある幼児、児童、生徒のみならず、それを必要とする者への適切な支援の方法について考えられるようになることをねらいとする。					
授業概要					
[対面授業]特別支援教育槽の特徴や、通常学級で支援のニーズが高い発達障害の特性や、知的障害や身体障害の特性や支援方法、いじめ・不登校・貧困・育児放棄・日本語が話せない児童・生徒対応について事例を挙げながら説明する。それぞれの支援の基礎についても概説する。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
授業では、障害名や病名、教育学、心理学などで使われる専門用語が尾たくさん出てきます。メモをしっかりと取って聞いてください。授業中の質問は大歓迎です。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
定期試験					
提出物			60		
授業態度			40		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	「はじめての特別支援教育―教職を目指す大学生のために」改訂版				
出版社名	有斐閣	著者名	柘植 雅義、渡部匡隆、二宮信一、納富恵子(編)		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	特別支援教育の理念。教員に求められる役割や技能について学ぶ。
2	障害とは:「障害があるとはどういうことか」について、ケガや病気との違い、健常児の教育との相違点などを学習する。通級による指導の必要性について検討を加える。
3	自閉症スペクトラム障害(ASD)・広汎性発達障害(PDD)・社会的コミュニケーション障害(SCD)などの基本的対応、インクルーシブ教育システムの構築、合理的配慮、基礎的環境調整について学ぶ。
4	注意欠陥多動性障害(ADHD)の理解と指導・支援 ADHDの三つの特性に基づく行動特徴について理解し、注意・叱責を控えるなどの基本的な心構えを学ぶ。
5	発達障害がある子どもに適切な支援教育を行うためには問題の背景を把握し、多面的な情報収集を行い、それらを総合して支援方針を決定する方法などについて事例を通じて学ぶ。自立活動の学校での位置づけと内容について学ぶ。
6	知的障害の理解と指導・支援:知的障害児の特性に加え、集団の中での適応の難しさや生活上の問題などをダウン候群の事例を通じて学び、適切な学習環境調整、合理的配慮、教育方法について理解する。
7	身体障害・視覚障害・聴覚障害の理解と指導・支援:教育現場で必要とされる知識である各障害の特性について理解し、どのような合理的配慮、基礎的環境調整、具体的対応があるか等、支援の方法などについて学ぶ。
8	中間総括:障害についての基本的知識、特別支援教育の制度や目標、障害の特性や対応について学んだことを整理し、課題に取り組む。
9	学習障害の理解と指導・支援:SLDの定義に含まれる音声言語(聞く・話す)や書字言語(読む・書く)の問題について実例を通じて理解し、配慮にとどまらず子どもの何を伸ばすのか指導・支援法のポイントを学ぶ。
10	いじめと不登校:いじめを受けている児童・生徒への適切な支援、不登校になっている児童・生徒への適切な学習環境の提供とは、対応方法、支援の方法について学ぶ。
11	障害はないが、貧困・育児放棄家庭への支援 貧困による就学困難児童・生徒への支援方法や、育児放棄家庭における保護者への対応方法を考える。
12	障害はないが、日本語が話せない児童・生徒への支援方法 さまざまな理由により日本語を話すことができない児童・生徒が学校に存在する。国際化社会の中で見落としてはならない問題について考える。
13	「個別の指導計画」を作成する。自ら選択した支援の必要なケースを想定し、特別支援が必要な児童・生徒に合わせた指導計画を作成する。
14	保護者、専門機関、地域との連携による支援:支援の効果は保護者との丁寧な情報交換、校内での協力体制の構築、専門家との連携などでさらにアップすること、特別支援教育コーディネータがそれらの中心的な役割を担うことなどを学ぶ。
15	全体総括:特別支援教育の基本、支援が必要な子どものさまざまな特性についての基本的理解、アセスメントや適切な支援とは何かなど科目を通じて学んだ概念・情報を整理し、改めーして復習し課題に取り組む。

科目名	音楽科指導法Ⅲ	年次	3	単位数	2
授業期間	2024年度前期	形態	講義		
教員名	小牟田 啓				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>■本授業は、「教師が何を教えるか」という考え方のみならず、「子どもたちにどのように学んでもらうか」「子どもたちに獲得させたい資質・能力をどう育むか」といった、各自の授業でザインを、「学習指導要領」に則った、具体的な授業構成ができる技能を学びます。また、音楽科授業を通しての、子ども達の様々な「なぜ」と向き合い考えることで、「感性」を大切に「人間力」を育む音楽科指導法を学びます。</p> <p>■授業目的は、音楽科指導法Ⅰ・Ⅱの授業内容を踏まえ、生徒の活動目標を「3観点」(基礎的な知識及び技能、思考力判断力表現力等、主</p>					
授業概要					
<p>■講義は、検定教科書から、①「2領域・4分野」の具体的な授業教材をを選択し、②指導事項、[共通事項]に即した学ばせたい音楽的事項を決め、③音楽的な見方・考え方を働かせ、④「主体的・対話的で深い学び」による学習形態を追求します。</p> <p>■特に、小・中、2社の検定教科書を、小中9年間の学びの連続性と系統性から見取り、「教科書採択演習」として比較検討を研究します。</p> <p>■講義内容の主要ポイント理解の定着確認については、毎回の授業課題「授業内 KIZUKI 報告」で見取ります。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>■ワークシート作成や、模範演奏のための教材提示力の事前スキルとして、Microsoft-Office365、楽譜作成ソフト MuseScore、音楽制作アプリ GarageBand 等の PC 活用環境を整えておいてください。</p> <p>■検定教科書(2社)に掲載されている教材について、各社毎の掲載内容の特徴を比較・検討し、授業構想を研究しておいて下さい。</p> <p>■A 表現(1)の歌唱共通教材(7曲)からは、学内で実施された弾き歌い歌唱曲(2曲)以外の5曲についても、模範唱(簡易伴奏可)ができるように事前練習をしておいて下さい。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
■毎回の授業内「KIZUKI 課題」の提出と演習試験			50%		
■課題教材に対する授業デザイン力(授業構成チェックシート作成)			30%		
■主体的に学習に取り組む姿勢			20%		
教科書情報					
教科書1	■『中学校学習指導要領解説 - 音楽編』(平成29年告示版)				
出版社名	(出)教育芸術社/必須購入	著者名	(著)文部科学省(2018)		
教科書2	■中学生の音楽 1、2・3 上下、中学生の器楽(令和3年度版)				
出版社名	(出)教育芸術社/必須購入	著者名			
教科書3	■中学音楽 音楽のおくりもの 1、2・3 上下、中学器楽(令和3年度版)				
出版社名	(出)教育出版社/必須購入	著者名			
参考書情報					
参考書名1	■「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料				
出版社名	(出)東洋館出版社	著者名	(著)文部科学省国立教育政策研究所/令和2年度版		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					

出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
<p>■特に授業では、教育現場の GIGA スクール構想(1 人一台タブレット)の進展に伴う、情報機器を活用した教材提示力のスキル(Microsoft-Office365、楽譜作成ソフト MuseScore、音楽制作アプリ GarageBand 等)を必要とします。ハード的な部分も含め、ICT 環境整備に積極的に努めて下さい。</p> <p>■また授業では、①検定教科書(2 社 8 冊)、②学習指導要領、③PC を常に持参活用しながらの参加を推奨します。</p> <p>■尚、A 表現(1)歌唱の共通教材 5 曲とは、「赤とんぼ」「花」「荒城の月」「早春賦」「花の</p>			
教員実務経験			
大阪府中学校音楽教育研究会顧問、JBA 日本吹奏楽指導者協会会員、近畿音楽教育連合会前代表理事、元中学校校長、元教育委員会総括指導主事等			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	<p>【音楽科における”学びの本質”と”意義”】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「音楽科で育む”感性”とは」 ・「なぜ学校の授業で音楽科を学ぶのか」音楽科の授業を学ぶ意義」 		
2	<p>【これまでの「学習指導要領」の成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「音楽科の 2 領域・4 分野の定着の成果の課題」 ・【共通事項】を支えとした知覚・感受の感受性の育成 		
3	<p>【新学習指導要領改訂の背景と基本的な考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新学習指導要領の内容構成の改善と考え方」・「小・中・高の概要と構成の比較を通して」 		
4	<p>【新学習指導要領改訂の主要なポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一体的な「主体的・対話的で深い学び」とは何か ・音楽科における「見方・考え方」とは何か 		
5	<p>【題材構成を要とした”学習指導案”の作成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学ばせたい音楽的事項を”題材名”にする重要性とは ・学ばせたい音楽的事項が適切に指導計画されているか 		
6	<p>【音楽科で育成される 3 つの資質・能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「知識及び技能」の習得 ・「思考力、判断力、表現力等」の育成 ・「学びに向かう力、人間性等」の涵養 		
7	<p>【中等科音楽科教育における教育評価のあり方①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「概ね満足 B と判断する”評価規準”を大切にする視点」 ・「概ね満足 B と判断する”評価規準”と”評価基準”との関係」 		
8	<p>【中等科音楽科教育における教育評価のあり方②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「指導計画」と「評価計画」を表裏一体にする意味 ・「評価から評定」の関係と「指導と評価の一体化」 		
9	<p>【小中校種間の連携と音楽科の学力】①【授業内 Group 演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校 “検定教科書”から観る音楽の力 ・「教科書採択」演習 		
10	<p>【小中校種間の連携と音楽科の学力】②【授業内 Group 演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導事項及び【共通事項】からの系統性 ・小中・世代を繋ぐ「日本の四季の歌」の魅力 		

11	<p>【授業づくりのポイントを踏まえた「授業構想チェックシート」の作成】①</p> <p>・「A 表現(1) 歌唱分野」指導事項ア、イ、ウの捉え方のコツ</p> <p>【授業内 Group 演習】</p>
12	<p>【授業づくりのポイントを踏まえた「授業構想チェックシート」の作成】②</p> <p>・「A 表現(2) 器楽分野」指導事項ア、イ、ウの捉え方のコツ</p> <p>【授業内 Group 演習】</p>
13	<p>【授業づくりのポイントを踏まえた「授業構想チェックシート」の作成】③</p> <p>・「A 表現(3) 創作分野」指導事項ア、イ、ウの捉え方捉え方のコツ</p> <p>【授業内 Group 演習】</p>
14	<p>【授業づくりのポイントを踏まえた「授業構想チェックシート」の作成】④</p> <p>・「鑑賞領域 B 鑑賞分野」指導事項ア、イの捉え方捉え方のコツ</p> <p>【授業内 Group 演習】</p>
15	<p>【講義のまとめと総括】</p> <p>・音楽科指導法Ⅳ、直前の教育実習に向けた授業計画の準備</p>

科目名	音楽科指導法Ⅳ	年次	3	単位数	2
授業期間	2024年度 後期	形態	講義		
教員名	小牟田 啓				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>本授業は、音楽科指導法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの授業内容を踏まえた、教育実習直前の音楽科指導法の総まとめとして、「難しいことをやさしく」「やさしいことを簡単に」「簡単なことを楽しく」をモットーに、履修学生全員参加による2領域・4分野の授業デザイン(学習指導案&ワークシート)による、「2024年度版 研究収録冊子」の作成完成をめざします。</p> <p>■授業目的は、教育実習に向けた2領域・4分野の教材研究による実践演習を中心に進め、更なる授業展開の実践力を高めます。</p> <p>■また、全中、近中、府中音楽教育研究会が開催した研究資料をもとに</p>					
授業概要					
<p>■講義は、①「2領域・4分野」の教材選択力と有効性、②学習指導要領の示す「留意事項」を踏まえた授業構成、③今日的課題を踏まえた授業構成、④「出合授業」の演習等の研究を協働的に進めていきます。</p> <p>■講義内容の主要ポイント理解の定着確認については、毎回の授業課題「授業内 KIZUKI 報告」で見取ります。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>■日頃より、自らの専門分野を生かした音楽的見地を授業開発に活かせるよう心がけ、研究しておいて下さい。</p> <p>■尚、教育実習における生徒との初めての出会いとなる「オープニング授業(出合授業)」(約7分)の授業構想では、自分の専門性を生かした”音と音楽”を活用した出会い構想を準備しておいて下さい。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
■ 毎回の授業内「KIZUKI 課題」の提出と演習試験			50%		
■ 「2024.版 研究収録冊子」への合格完成版の入稿			30%		
■ 主体的に学習に取り組む姿勢			20%		
教科書情報					
教科書1	■『中学校学習指導要領解説 - 音楽編』(平成29年告示版)				
出版社名	(出)教育芸術社/必須購入	著者名	(著)文部科学省(2018)		
教科書2	■中学生の音楽 1、2・3 上下、中学生の器楽(令和3年度版)				
出版社名	(出)教育芸術社/必須購入	著者名			
教科書3	■中学音楽 音楽のおくりもの 1、2・3 上下、中学器楽(令和3年度版)				
出版社名	(出)教育出版社/必須購入	著者名			
参考書情報					
参考書名1	■「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料				
出版社名	(出)東洋館出版社	著者名	(著)文部科学省国立教育政策研究所/令和2年度版		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
特記事項	
<p>■特に授業では、教育現場の GIGA スクール構想(1 人一台タブレット)の進展に伴う、情報機器を活用した教材提示力のスキル(Microsoft-Office365、楽譜作成ソフト MuseScore、音楽制作アプリ GarageBand 等)を必要とします。ハード的な部分も含め、ICT 環境整備に積極的に努めて下さい。</p> <p>■また授業では、①検定教科書(2 社 8 冊)、②学習指導要領、③PC を常に持参活用しながらの参加を推奨します。</p>	
教員実務経験	
大阪府中学校音楽教育研究会顧問、日本吹奏楽指導者協会会員、近畿音楽教育連合会前代表理事、元中学校校長、元教育委員会総括指導主事等	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	【「2024 版 研究収録冊子」の作成に向けて】 ・「音楽科指導法Ⅳの進め方及びガイダンス」
2	【今日的な課題に対応した「音楽科」のあり方】 ・「今日的課題に向き合う音楽科の役割」
3	【音楽科授業の内容として、ふさわしい授業とふさわしくない授業】【Group 演習】 ・「歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習指導上の意義と留意点をもとしたふさわしくない授業」の演習。
4	【生徒が主体となって学習する音楽科の授業構成】【Group 演習】 ・「生徒が主体となる楽しい音楽学習」を実現するため授業工夫
5	【「留意事項」を踏まえた「授業構想」の工夫】① ・「新学習指導要領第 3.1(5)「障害のある生徒についての、学習活動の指導方法の工夫」他。
6	【「留意事項」を踏まえた「授業構想」の工夫】② ・「新学習指導要領第 3.2(1)ア「音楽活動を通して、音や音楽が生活に果たす役割を考えさせ、音や音楽と生活や社会との関わりを実感できるよう考慮した学習活動の指導方法の工夫と自然音や環境音などの取り扱い」他。
7	【「留意事項」を踏まえた「授業構想」の工夫】③ ・「新学習指導要領第 3.1(6)「第 1 章総則の第 1 の 2 の(2)に示す道德教育の目標に基づいた、道德科などとの関連を考慮した学習活動の指導方法の工夫」他。
8	【今日的課題を踏まえた授業構成の演習】①【Group 演習】・概ね「週 1 回の音楽科の授業」による効果的な学習展開をめざした「表現領域と鑑賞領域の連携」を図った学習指導案の作成。
9	【今日的課題を踏まえた授業構成の演習】②【Group 演習】 ・「日本の音・音楽」を題材とした学習指導案の作成。 ・「生活や社会の中の音や音楽」を題材とした学習指導案の作成。
10	【今日的課題を踏まえた授業構成の演習】③【Group 演習】 ・「小中タテに繋がる学びの連続性」を要とした学習指導案の作成。 ・「我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい、愛着をもつことができる」学習指導案の作成。
11	【情報機器(D 教科書、タブレット、PP、録音技術等)を活用した教材提示力を生かした授業構成】 ①【Group 演習】 ・PP によるプレゼン、WS 等に楽譜を貼り付ける技能演習
12	【情報機器(D 教科書、タブレット、PP、録音技術等)を活用した教材提示力を生かした授業構成】 ②【Group 演習】 ・多重録音等による模範演奏作成の技能演習
13	【各自の専門性を生かした「音と音楽」を活用した出会い授業】①【個人演習】 ・教育実習における生徒との初めての出会いとなる授業
14	各自の専門性を生かした「音と音楽」を活用した出会い授業】②【個人演習】 ・教育実習における生徒との初めての出会いとなる授業
15	15.【「難しいことをやさしく」「やさしいことを簡単に」「簡単なことを楽しく」】

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">・2 領域・4 分野の「学習指導案&ワークシート」完全版の検修と提出。・教育実習に向けた授業計画の直前準備 |
|--|--|

科目名	国語科指導法Ⅱ	年次	3	単位数	2
授業期間	2024年度 後期	形態	講義		
教員名	龍本 那津子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>授業目的:「国語科指導法Ⅰ」で身につけた国語教師としての基礎力をさらに充実させ、国語科指導の実践力を養う。到達目標:様々な教材について教材研究の方法を身につけ、授業計画を立てることができる。一つの教材について多様な指導法を考えることができる。</p>					
授業概要					
<p>対面授業本授業においては、主に中学校の教科書を用いて〔思考力・判断力・表現力等(「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと)〕、〔知識及び技能〕(「我が国の言語文化に関する事項」)に関する授業法を考え、理解を深める。さらに、現在の教育の動向を知り、新しい時代に対応した指導法(アクティブ・ラーニングを取り入れた授業・ICTを活用した授業など)について学ぶ。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>・毎回授業の初めに小発表を行う。課題は授業で指示する。・発表やグループワーク、討論などを行うので、積極的に取り組んで欲しい。・その他、授業中に指示する課題を確実に提出すること</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業に取り組む姿勢			30		
模擬演習・課題の内容			50		
レポート			20		
教科書情報					
教科書1	実践国語科教育法-第3版:「楽しく、力のつく」授業の創造				
出版社名	学文社	著者名	町田守弘(編集)		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	「中学校学習指導要領解説 国語編」				
出版社名	東洋館出版	著者名			
参考書名2	「高等学校学習指導要領解説 国語編」				
出版社名	教育出版	著者名			
参考書名3	中学校・高等学校国語科教育法研究				
出版社名	東洋館出版	著者名	田近洵一, 鳴島甫編著; 塚田泰彦 [ほか]		
参考書名4	「中学校学習指導要領」				
出版社名	東山書房	著者名			
参考書名5	「高等学校学習指導要領」				
出版社名	東山書房	著者名			
参考 URL					
{文部科学省, https://www.mext.go.jp/index.htm }					
特記事項					

教員実務経験	
元高等学校国語科教諭の教員が、高等学校国語科授業の経験を活かして、具体的な指導方法を授業する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	はじめに:国語科指導法Ⅱで何を学ぶか
2	最近の国語科教育の動向について
3	[思考力・判断力・表現力等](「話すこと・聞くこと」)の指導① 先行事例の研究
4	[思考力・判断力・表現力等](「話すこと・聞くこと」)の指導② 実践演習とディスカッション
5	[思考力・判断力・表現力等](「書くこと」)の指導 ① 先行事例の研究
6	[思考力・判断力・表現力等](「書くこと」)の指導 ② 実践演習とディスカッション
7	[思考力・判断力・表現力等](「読むこと」)の指導 ① 読解力を育てるには
8	[思考力・判断力・表現力等](「読むこと」)の指導 ② 実践演習とディスカッション
9	[知識及び技能](「我が国の言語文化に関する事項」)の指導 ①先行事例研究
10	[知識及び技能](「我が国の言語文化に関する事項」)の指導 ②実践演習とディスカッション
11	思考力を育てる授業 シンキングツールの活用法
12	アクティブ・ラーニングを取り入れた授業① 先行事例研究
13	アクティブ・ラーニングを取り入れた授業② 指導法を考える
14	アクティブ・ラーニングを取り入れた授業③ 発表演習とディスカッション
15	ICTを活用するために

科目名	教育社会学	年次	3	単位数	2
授業期間	2024年度 後期	形態	講義		
教員名	土屋 尚子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>この授業では、本学のディプロマポリシーにある「社会創造・貢献への意欲・能力」を獲得した教員を目指すために必要となる広い視野と科学的な思考能力を身につけることを目的とする。</p> <p>到達目標は以下の通り。「教育格差、ジェンダー、子ども・若者「問題」、教育改革」、これらの教育事象について社会とのかかわりから説明することができる</p>					
授業概要					
<p>「教師聖職論」に象徴されるように、伝統的に教育は聖なる営みと見なされてきた。人々は聖なる教育に対し大きな期待を抱くがゆえに、そこにあてはまらない教育事象を「問題」視する。本講義では、複数の教育事象を取り上げ、教育を聖なるものとしてではなく、社会事象の一つとしてとらえ、そのありのままを観察し、分析する。そのうえで、あらためて教育の何が「問題」で何が「問題」でないのかを考察していきたい。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>予習: 授業テーマやサブテーマについて下調べした上で、自分自身の考えをまとめておく(2 時間) 復習: ノートをしっかり整理する。とりわけ、第 4 回、7 回、10 回、14 回に配布されたまとめプリントについてわからない用語は調べておく(2 時間) 準備学修(予習・復習)・受講上の注意: 毎授業終了後、小レポートを作成してもらう。あくまでも、その内容が評価対象であることに注意すること</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常点: 毎回授業終了後に提出してもらう小レポートの点数、授業態度(私語、遅刻、学生証忘れ)等			45		
期末試験(授業内試験)			55		
教科書情報					
教科書1	指定しない。適宜、授業内で資料プリントを配布する。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	指定しない。適宜、授業内で紹介する。				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	教育社会学とは何か キーワード: 教育から社会へ、社会から教育へ、教育の中の社会
2	教育格差と社会—現代社会における「格差」の実態 キーワード: 格差社会論、教育の格差論、学力調査、家庭環境と学力の関連性
3	教育格差と社会—学力格差・意欲格差・希望格差 キーワード: 保護者の教育願望、貧困家庭、学習阻害要因、機会の不平等
4	教育格差と社会—格差の縮小を目指して キーワード: ヘッド・スタート計画、教育アクション地域、子どもの貧困対策の推進に関する法律、力のある学校
5	ジェンダーと社会—男女別のカリキュラム キーワード: ジェンダー、性別役割分業観、中学校、高等女学校、家庭科
6	ジェンダーと社会—かくれたカリキュラム キーワード: 男女を分けない教育、かくれたカリキュラム、ジェンダー・バイアス、進路選択
7	ジェンダーと社会—ジェンダーに敏感な教育 キーワード: 「男子問題」、性的マイノリティ、ジェンダーに敏感な教育、男女平等教育
8	子ども・若者「問題」と社会—家庭の教育力は低下したのか キーワード: 地域社会における産育、家庭の教育戦略、親役割の拡大、家族の多様化
9	子ども・若者「問題」と社会—若者の社会化と逸脱 キーワード: 社会化、エージェント、反社会的行動、非社会的行動、ボンド理論
10	子ども・若者「問題」と社会—若者文化と学校 キーワード: 絶対的価値規範の衰退、コミュニケーション能力、スクールカースト、友人関係
11	教育改革と社会—臨時教育審議会答申が提起するもの キーワード: 教育の公共性、画一主義教育への批判、臨時教育審議会、個性重視の原則
12	教育改革と社会—新自由主義に基づく教育改革 キーワード: 新自由主義、公的サービスの民営化、公教育自由化論、学校の個性化
13	教育改革と社会—社会に開かれた学校を目指して キーワード: 学校の個性化、地域の教育力、学校運営協議会、学校・地域の連携と協働
14	教育改革と社会—子どもの安全・安心を保障するために キーワード: 安全確保、危機管理、学校保健安全法、学校事故対応に関する指針
15	今期のまとめ(30分)+授業内試験(60分)

科目名	国語科指導法Ⅲ	年次	3	単位数	2
授業期間	2024年度前期	形態	講義		
教員名	龍本 那津子				
クラス名	選択科目				
授業目的と到達目標					
<p>授業目的: 模擬授業を多く経験することで、国語科指導の実践力を高める。さらに新しい時代に対応した国語教育のあり方について考え、授業実践に生かす。</p> <p>到達目標: 様々な教材について授業計画を立て、学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。様々な教材・指導法に関する知見を深めている。</p>					
授業概要					
<p>対面授業本授業においては、主に中学校の教科書を用いて[思考力・判断力・表現力等]（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）および[知識及び技能]のうち「我が国の言語文化に関する事項」に関する模擬授業を多く行う。ディスカッションを通して相互に問題点を発見し、よりよい授業法を考える。さらに、新しい時代に対応した指導法（アクティブ・ラーニングを取り入れた授業・ICTを活用した授業など）を取り入れた授業構成を考える。</p>					
準備学修（予習・復習）・受講上の注意					
<p>・毎回授業の初めに小発表を行う。課題は授業で指示する。・発表やグループワーク、討論などを行うので、積極的に取り組んで欲しい。・その他、授業中に指示する課題を確実に提出すること。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合（％）		
授業に取り組む姿勢			30		
模擬授業・課題の内容			50		
レポート			20		
教科書情報					
教科書1	実践国語科教育法-第3版:「楽しく、力のつく」授業の創造				
出版社名	学文社	著者名	町田守弘（編集）		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	「中学校学習指導要領」				
出版社名	東山書房	著者名			
参考書名2	「高等学校学習指導要領」				
出版社名	東山書房	著者名			
参考書名3	「中学校学習指導要領解説 国語編」				
出版社名	東洋館出版	著者名			
参考書名4	「高等学校学習指導要領解説 国語編」				
出版社名	教育出版	著者名			
参考書名5	中学校・高等学校国語科教育法研究				
出版社名	東洋館出版	著者名	田近洵一、鳴島甫編著；塚田泰彦 [ほか]		
参考 URL					
{文部科学省, https://www.mext.go.jp/index.htm }					

特記事項	
前年度に「国語科指導法Ⅰ」を履修している者を対象とする科目である。	
教員実務経験	
元高等学校国語科教諭の教員が、高等学校国語科授業の経験を活かして、具体的な指導方法を授業する。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	はじめに:国語科指導法Ⅲで何を学ぶか
2	実践模擬授業の教材の選定
3	実践模擬授業のための教材研究
4	実践模擬授業の指導計画を立てる
5	実践模擬授業の学習指導案作成(全体案と評価規準)
6	実践模擬授業の学習指導案作成(本時案)
7	学生(A)による実践模擬授業(第1回目)とディスカッション
8	学生(B)による実践模擬授業(第1回目)実践模擬授業とディスカッション
9	学生(C)による実践模擬授業(第1回目)実践模擬授業とディスカッション
10	学生(D)による実践模擬授業(第1回目)実践模擬授業とディスカッション
11	学生(A)による実践模擬授業(第2回目)実践模擬授業とディスカッション
12	学生(B)による実践模擬授業(第2回目)実践模擬授業とディスカッション
13	学生(C)による実践模擬授業(第2回目)実践模擬授業とディスカッション
14	学生(D)による実践模擬授業(第2回目)実践模擬授業とディスカッション実践模擬授業の総括
15	おわりに:よりよい授業を作るために

科目名	人権教育論	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2
授業期間	2024年度 後期	形態	講義		
教員名	石川 結加				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>授業目的この授業を通してディプロマポリシーにある国際的視野にたち、実用的合理性をあわせ持った教員をめざせる人材を育成することを目的とする。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 日本をはじめ世界に存在する差別、不平等、格差等の問題を私事として捉え、正しく理解する。</p> <p>2) 人権問題を国際人権基準をはじめ、国内の法律や社会制度と関連づけながら理解する。</p> <p>3) 現存する人権をめぐる諸課題の解決策を模索しながら、誰もが住みやすい社会の将来像を描き、教育の役割について考える。</p> <p>4) すでに国内で取り組まれている人権に関連する教育実践を学ぶと</p>					
授業概要					
<p>国連が採択した人権教育関連決議や行動計画をはじめ、国内における人権教育に関わる法律及び基本計画、そして指導方法等に関するとりまとめを理解する。また、国際人権基準や日本国憲法で謳われている基本的人権を踏まえて国内の人権問題を課題別に歴史、現状、関連法及び対策、教育実践等について考察する。さらに、人権を主体的に深く学ぶため、グループワークやディスカッション等の参加型体験学習法を取り入れる。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
予習:30分 毎時に指定された章の予読。復習:30分 授業資料の復習及びワークシートの作成・提出。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
ワークシート			50%		
試験			50%		
教科書情報					
教科書1	『人権教育への招待 ―ダイバーシティの未来をひらく』 2019年				
出版社名	解放出版社	著者名	神村早織・森実編著		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					

出版社名		著者名	
参考 URL			
人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ] 文部科学省 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/024/report/08041404.htm 人権教育の指導方法等の 在り方について[第三次とりまとめ] 補足資料 文部科学省 <a href="https://www.mext.go.jp/content/20200310-
mxt_jidou02-000100368_01.pdf">https://www.mext.go.jp/content/20200310- mxt_jidou02-000100368_01.pdf 人権及び人権教育について 文部科学省 http://www.mext .			
特記事項			
フィールドワークや特別講義への参加を奨励。			
教員実務経験			
人権教育者としての視点から、人権教育の意義及び有効な手法について指導する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業の概要、自己紹介、序章 人権教育とは何か パート1:人権教育の歴史的背景		
2	序章 人権教育とは何か パート2:国内人権教育の4側面		
3	序章 人権教育とは何か パート3:国際的な人権教育確立の動向		
4	第1章 学校・子ども・人権 「子どもの人権」		
5	第1章 学校・子ども・人権 「障害者と人権」		
6	第1章 学校・子ども・人権 「在日外国人と多文化共生」		
7	第1章 学校・子ども・人権 「部落差別と人権」		
8	第1章 学校・子ども・人権 「ジェンダーとセクシュアリティ」		
9	第2章 人権を学ぶ基礎概念		
10	第3章 同和教育実践の再発見		
11	第4章 生活を通して子どもをつなぐ集団づくり		
12	第5章 人権学習を作る視点と方法		
13	第6章 地域とつながる人権教育		
14	第7章 人権教育の現代的課題		
15	試験人権教育実践の補足説明		

科目名	工芸科指導法 I	年次	3	単位数	2
授業期間	2024 年度 前期	形態	講義		
教員名	石津 勝				
クラス名	教職課程				
授業目的と到達目標					
<p>工芸及び工芸科教育についての概説に始まり、これからの工芸科教育の目標や在り方などについて考察した上で、具体的な授業設計や学習指導案を作成できるなど、学校現場に於いて実際に活かせる授業実践力を獲得する。また教育者として社会に貢献し得る能力を修めることを目指す。</p>					
授業概要					
<p>対面授業生活と密接な関係にある工芸及び、今日までの工芸科教育はどのように行われてきたか、そして、これからの工芸科教育はいかにあるべきかについて、学習指導要領の理解をはじめ多様な実践例に基づき、題材の選択、素材とのかかわり、制作と技法、道具・機械等の安全指導、評価などについて総合的に考察する。同時に身近な素材を使つての教材研究を行い学習指導案を作成し、指導方法などについても具体的に考察する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>課題及びレポートなどの提出期限は厳守のこと。適時プリントを配布するので、事前に必要な予習を行い、必要な準備物も用意すること。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出課題及びレポート、主体的な授業参加を総合的に評価			100		
教科書情報					
教科書1	教科書 工芸 I 工 1-701				
出版社名	日本文教出版	著者名	横田 学 他		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	高等学校学習指導要領解説・芸術編				
出版社名	教育出版株式会社	著者名	文部科学省		
参考書名2	教授資料 工芸 I 工 1-701				
出版社名	日本文教出版	著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

担当教員は、高等学校に於ける工芸科授業の実務経験を活かし、実践的な場面を想定した具体的な指導方法の授業を行う。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	工芸及び工芸科教育についての概説と考察
2	工芸科教育の目標(学習指導要領解説など)について解説と考察
3	教科書の解説と模擬授業1・オリエンテーション／つくる喜び・暮らしのかたち・身近な生活環境と工芸(情報機器及び教材を効果的に活用し、模擬授業に活用する)
4	教科書の解説と模擬授業2・観察から表現／生活を観察する・美しい造形へ・観察と表現・考える(情報機器及び教材を効果的に活用し、模擬授業に活用する)
5	教科書の解説と模擬授業3・造形の機能と構造／機能と造形(にぎる・つつむ)・構造と造形(すわる・あかり)(情報機器及び教材を効果的に活用し、模擬授業に活用する)
6	教科書の解説と模擬授業4・造形の成形と色彩／つくる技術・材料の魅力・テクスチャー・色彩について(情報機器及び教材を効果的に活用し、模擬授業に活用する)
7	教科書の解説と模擬授業5・つくる-材料と技法／木でつくる・土でつくる・編む・染める(情報機器及び教材を効果的に活用し、模擬授業に活用する)
8	学習指導案及び年間指導計画案についての解説と考察
9	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)竹箸をつくる1／導入説明・発想・材料取り
10	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)竹箸をつくる2／削る
11	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)竹箸をつくる3／研磨する
12	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)竹箸をつくる4／装飾する
13	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)竹箸をつくる5／仕上げ
14	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)竹箸をつくる6／鑑賞・まとめ(情報機器及び教材を効果的に活用した学習指導案を考える)
15	課題(竹箸をつくる)の学習指導案の提出・発表・考察

科目名	工芸科指導法Ⅱ	年次	3	単位数	2
授業期間	2024年度 後期	形態	講義		
教員名	石津 勝				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>工芸及び工芸科教育についての概説に始まり、これからの工芸科教育の目標や在り方などについて考察した上で、具体的な授業設計や学習指導案を作成できるなど、学校現場に於いて実際に活かせる授業実践力を獲得する。また教育者として社会に貢献し得る能力を修めることを目指す。</p>					
授業概要					
<p>対面授業生活と密接な関係にある工芸及び、今日までの工芸科教育はどのように行われてきたか、そして、これからの工芸科教育はいかにあるべきかについて、学習指導要領の理解をはじめ多様な実践例に基づき、題材の選択、素材とのかかわり、制作と技法、道具・機械等の安全指導、評価などについて総合的に考察する。同時に身近な素材を使つての教材研究を行い学習指導案を作成し、指導方法などについても具体的に考察する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>課題及びレポートなどの提出期限は厳守のこと。適時プリントを配布するので、事前に必要な予習を行い、必要な準備物も用意すること。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
学年末試験、提出課題及びレポート、主体的な授業参加を総合的に評価			100		
教科書情報					
教科書1	高等学校芸術科工芸1・教科書				
出版社名	日本文教出版	著者名	小松敏明 他		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	高等学校学習指導要領解説・芸術編				
出版社名	教育出版株式会社	著者名	文部科学省		
参考書名2	高等学校芸術科工芸1・教授資料				
出版社名	日本文教出版	著者名	小松俊明 他		
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験

担当教員は、高等学校に於ける工芸科授業の実務経験を活かし、実践的な場面を想定した具体的な指導方法の授業を行う。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	工芸及び工芸教育に関連する視聴覚教材を視聴し、授業設計への活用方法を考える
2	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)オリジナル立体カード1／導入説明・既成型紙を使って試作
3	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)オリジナル立体カード2／発想・デザイン(情報機器を活用し、デザイン図案を作成する学習指導案を考える)
4	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)オリジナル立体カード3／試作
5	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)オリジナル立体カード4／本制作
6	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)オリジナル立体カード5／鑑賞・まとめ
7	課題(オリジナル立体カード)の学習指導案の提出・発表・考察(情報機器及び教材を効果的に活用した学習指導案を考える)
8	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)ペットボトルキャンドル1／導入説明・発想・デザイン
9	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)ペットボトルキャンドル2／試作
10	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)ペットボトルキャンドル3／本制作
11	課題制作と学習指導案の作成(教材研究)ペットボトルキャンドル4／鑑賞・まとめ
12	課題(ペットボトルキャンドル)の学習指導案の提出・発表・考察(情報機器及び教材を効果的に活用した学習指導案を考える)
13	工芸科教育の鑑賞及び評価について
14	工芸科教育の環境(教室など)について
15	本授業のまとめ・授業アンケート他／後日の定期試験にて試験実施

科目名	教育心理学	年次	2	単位数	2
授業期間	2024年度前期	形態	講義		
教員名	山口 恵				
クラス名					
授業目的と到達目標					
教育心理学とは、乳児期から青年期にかけての人間のこころの発達と教育との関係に着目した学びである。教育に関わる様々な問題について、心理学的な観点から考察する。教育心理学に関する基本的な知識の習得や、用語を理解し、教育現場にでた際には、その知見を応用できることを目標とする。					
授業概要					
基本的には講義形式であるが、教育心理学をより深く学ぶために、ワークショップや映像なども、積極的に取り入れていく。講義内容やその進度は、受講生の理解度や姿勢に応じて変更することがある。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
事前に講義資料を配信することがある。教科書と合わせて目を通すこと。授業中はノートを取り、授業後には適宜、内容を見直すことが好ましい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
主体的な授業参加、授業感想レポート			30		
試験			70		
教科書情報					
教科書1	よくわかる教育心理学 第2版				
出版社名	ミネルヴァ書房	著者名	中澤潤 編著		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
臨床心理士、公認心理師である教員が、スクールカウンセラー等の経験を活かし講義することで、教育分野においてその知見を応用できる人材の育成を目指す。					

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	教育心理学とはなにか オリエンテーション
2	発達について① 発達とはなにか、主に乳児期～青年期までの発達について学ぶ
3	発達について② 基本的な発達課題について学ぶ ピアジェ、エリクソン、フロイト等
4	学習について① 記憶の種類や仕組みについて 基本的な学習理論について学ぶ
5	学習について② 学習指導と学習評価について 動機づけについて学ぶ
6	知能について 知能および知能検査、IQ の表示法について学ぶ
7	特別支援教育について 特別支援教育の実際について学ぶ
8	こどもの精神疾患について こどもによくみられる心身症をはじめとする精神疾患について学ぶ
9	学級集団について 学校における基本的集団である学級について学ぶ
10	適応への支援と理解① 虐待やヤングケアラー、こどもの貧困等について学ぶ
11	適応への支援と理解② 不登校について学ぶ
12	教師の役割について 学校における教師の役割について学ぶ
13	スクールカウンセリングについて スクールカウンセリングとチーム学校について学ぶ
14	スクールカウンセリングについて スクールカウンセリングとカウンセリングマインドについて学ぶ
15	総まとめと試験 授業の振り返りと試験

科目名	教育とICT活用の理論と方法	年次	3	単位数	1
授業期間	2024年度前期	形態	演習		
教員名	北浦 米造				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>これからの学校教育では、個別最適で協働的な学びの実現とともに情報活用能力の育成、また校務の情報化に向けて、教員はICTを活用し指導する能力が求められている。そこで本授業では、建学の精神である実用的合理性の重視に基づき、中学校及び高等学校教員として必要となるICT活用能力を獲得するため、次の到達目標を挙げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの意義や事例等をもとに、様々な授業場面において効果的なICT活用が設計できる。 ・1人1台の双方向通信機能等を生かした端末操作やデジタル教材の作成、基本的な校務処理ができる。 ・情報モラルの意識と視点をもって、生徒の情報活用能力を育む指導ができる。 					
授業概要					
<p>GIGAスクール構想の理念に基づき、1人1台端末の環境で、双方向の通信機能を活用して授業を進める。主な授業の流れは、ICTの意義や教科等の具体的な活用事例をもとに、演習を通しての操作スキルを身につける。そして、それらが他の授業でも応用できるよう、ICT活用の授業場面を設計したり、デジタル教材を作成したりして相互発表で学びを深める。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>ICT活用は教員にとって、授業や校務全般にわたり必要不可欠な職務能力となることから、積極的に学びを進めてスキルや応用力を身につけること。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業や課題の取り組み			50		
発表や成果物			50		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	必要資料は、授業毎に配布します。				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考URL					

特記事項	
教員実務経験	
北浦米造: 学校でコンピュータ導入の黎明期から現在の端末整備に至るまで ICT の活用研究や情報教育の推進、教員研修を担ってきた。その教員・管理職経験を活かし、ICT 活用の今日的ニーズを踏まえて、学校現場のリアルな状況を想定しながら、より実践的で汎用性が高い演習を行う。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業ガイダンス: ICT 活用の意義
2	GIGA スクール構想における端末の機能
3	デジタル化した問題や資料等の配布と回収処理
4	シンキングツールを用いた授業の展開
5	教科指導(美術)における ICT 活用の事例
6	教科指導(美術)における ICT 活用の応用
7	教科指導(音楽)における ICT 活用の事例
8	教科指導(音楽)における ICT 活用の応用
9	教科指導(国語)における ICT 活用の事例と活用
10	電子教科書、オンライン教育の意義と活用
11	プログラミングの指導法①
12	プログラミングの指導法②
13	情報モラル教育と情報セキュリティ
14	校務の情報化における運用
15	ICT を活用した授業等の振り返り

科目名	生徒指導と進路指導論	年次	2	単位数	2
授業期間	2024年度前期	形態	講義		
教員名	松山 明				
クラス名	【19以降生対象】				
授業目的と到達目標					
<p>情報化が進展する現代社会で発生する児童生徒の問題行動等の背景には、規範意識や倫理観の低下が関係していると指摘されている。生徒指導は一人ひとりの児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高めるように指導、援助するものである。生徒指導と進路指導論では、教員に求められる基本的資質、子供理解、学習指導、組織の運営参画などの知識や技能を、演習や対話などを通じて習得できるように取り組む。</p>					
授業概要					
<p>「生徒指導」は「学習指導」と並んで学校教育で重要な意義を持つものである。校則違反、飲酒喫煙、薬物乱用、窃盗、万引きなどの反社会的問題行動の実態と原因について理解を図る。 また、問題行動はなぜ発生するのかを考え、日常の学校生活をどう取り組むべきかを考察する。 学校においてわかる授業を創ること、自尊感情を育成すること、将来の目的意識を醸成すること等、生徒の将来に向けて実践すべき内容や生徒指導のあり方を考える。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>生徒にとって楽しい学校とは、どのようにすればよいかということを基本とし、学校生活、家庭生活をどう過ごさせるかを考える。 教育を取り巻く社会状況の変化や新聞・マスメディアなどのニュースに関心を持つ。 生徒に学ぶことの意味や、学校の教育活動をどのように計画するか自身の中高生での経験を活かし、教員としての学習指導、生徒指導、学級経営、進路指導の在り方を考察し研究を進める。 配布資料の要点の整理を通じて教員としての指導力を高める。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
レポート 1 ～ 6			30%		
課題論文 1 ～ 5			35%		
授業内筆記試験			35%		
教科書情報					
教科書1	生徒指導提要				
出版社名	東洋館出版社	著者名	文部科学省		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			

参考書名5	
出版社名	著者名
参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
中学校教諭 学年主任 生徒指導主事 大阪市教育委員会指導部 中学校教育課指導主事 大阪市立中学校校長	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	生徒指導と進路指導論のシラバスと授業方針を知る。生徒指導提要の構成の理解と活用の意義を学ぶ。 学校では年度初めに教育指導の計画や、学校経営計画を策定し、教職員の共通理解を図っている。
2	生徒指導は学校生活のすべてに作用する教育機能。生徒指導の体制づくり。生徒指導体制の確立の意義。 学校生活がすべての児童生徒にとって有意義で興味深く充実したものになることを目指す。
3	個別の課題への対応Ⅰ 校則違反、飲酒・喫煙、規範意識の育成。 規範とは、特定の人々の間で個人が同調することを期待されている行動、あるいは評価の規準。
4	個別の課題への対応Ⅱ 薬物乱用、窃盗・万引き、問題行動 家庭裁判所の審判に付す少年 犯罪少年、触法少年、虞犯少年、児童相談所の役割 等
5	個別の課題への対応Ⅲ 暴力行為、いじめ 学級崩壊 暴力行為は、対教師暴力、生徒間暴力、対人暴力、器物破損の4形態に分ける。
6	個別の課題への対応Ⅳ いじめ いじめ問題の早期発見・早期指導 いじめはどの子どもにも、どの学校においても起こりえるものであること。
7	個別の課題への対応Ⅴ 家出・ブチ家出 性非行・家出を原因別に分類すると家庭関係次いで学業関係。 性にかかわる問題を起こす生徒の多くに「親の愛情飢餓」の状態が見受けられる。
8	個別課題への対応Ⅵ 不登校 不登校の解決は「心の問題」のみではなく広く「進路の問題」としてとらえることが大切。学校内の解決策として通いたくなる学校、信頼溢れる学校づくりを進める。
9	学校教育の最近の事例を考えるⅠ 将来への目的意識の醸成 キャリア教育の推進。 キャリア教育を構成する4つの力は、人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力である。
10	学校教育の最近の事例を考えるⅡ インターネット・ケータイ問題、IT社会の諸課題 メディア・リテラシー教育とは、コンピューター等の情報媒体に関する知識や活用能力のこと。
11	学校教育の最近の事例を考えるⅢ 命の教育と自殺防止 命の認識への働きかけ 自殺の危険因子とは 自殺未遂歴、心の病、孤立感、事故傾性
12	学校教育の最近の事例を考えるⅣ 全国学力・学習状況調査の分析から考える生徒指導。 生徒質問紙 大阪府の生徒の割合と、全国の生徒数の割合の比較から考える。等
13	学校教育の最近の事例を考えるⅤ 特別支援教育を進めるために。特別支援教育への転換点 校内の特別支援コーディネーターとともに、教員の一人一人の専門性の向上を図る。
14	学校教育の最近の事例から考えるⅥ 生徒指導と体罰問題について考える 授業内筆記試験 前期の講義内容の理解度をはかるとともに、授業改善に生かす。
15	生徒指導力の向上、教師力の向上、学校力の向上 教育相談活動の充実と活性化 生徒との心のふれあい について考える。目指す学校像 つくる学級像 育てる生徒像を考える 新しい学校行事の創造。

科目名	教育学概論	年次	2	単位数	2
授業期間	2024年度前期	形態	講義		
教員名	土屋 尚子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>本学の教育目的(人材育成方針)にある「民主社会における指導的人材」としての教員を目指すために必要となる教育の基本的概念や理念について理解することを目的とする。到達目標は以下の2点。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育の歴史的変遷と思想について説明することができる。 ・家族、子どもの歴史的変遷と思想について説明することができる。 					
授業概要					
<p>教育学の領域から、教育制度、教育方法、学校文化、家族に関連して、いくつかのトピックをとりあげ、その歴史や思想を学ぶことによって、教育の基本的概念や理念についての理解を深めることを目指す。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>予習: 授業テーマやサブテーマについて下調べした上で、自分自身の考えをまとめておく(2時間)。 復習: ノートをしっかり整理する。とりわけ、3、5、8、12、14回目に配布されたまとめプリントについてわからない用語は調べておく(2時間)。 準備学修(予習・復習)・受講上の注意: 授業終了後ミニレポートを作成してもらおう。その内容が平常点に加算される(提出しただけでは、点数にならないので注意すること)。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常点: 毎回授業終了後に提出してもらおう小レポートの点数 授業態度(私語、遅刻、学生証忘れ)等			45		
授業中試験			55		
教科書情報					
教科書1	指定しない。適宜、授業内でプリントを配布する				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	指定しない。適宜、授業内で紹介する。				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	教育学とは何か キーワード: 教育制度、教育方法、教育史、教育思想
2	公教育の歴史と思想①—近代教育制度の成立 キーワード: 公教育、天皇主権、教育勅語、御真影、国定教科書
3	公教育の歴史と思想②—戦後教育改革 キーワード: 国民主権、教育を受ける権利、学習指導要領、検定教科書
4	教育評価の歴史と思想①—教育評価の変遷 キーワード: 教育評価、受験重視教育、一教科一評定主義、観点別評価
5	教育評価の歴史と思想②—新しい教育評価 キーワード: 新しい学力観、ポートフォリオ評価、ルーブリック、自己評価
6	特別支援教育の歴史と思想①—整備の遅れた障害のある子どもの教育 キーワード: 障害のある子どもの教育を受ける権利、特殊教育制度、就学義務の猶予・免除、分離教育、統合教育
7	特別支援教育の歴史と思想②—特殊教育から特別支援教育へ キーワード: ノーマライゼーションの思想、インクルーシブ教育、特別支援教育制度
8	特別支援教育の歴史と思想③—障害のある生徒への性教育 キーワード: 障害のある人の性、リプロダクティブ・ヘルス・ライツ、性教育
9	子どもと家族の歴史と思想①—家庭のしつけの今昔 キーワード: 近代以前の家族、働く子ども、近代家族、教育される子ども
10	子どもと家族の歴史と思想②—子どもの誕生 キーワード: 子ども観、アリエス、小さな大人、大人と区別されるべき存在としての子ども
11	子どもと家族の歴史と思想③—児童中心主義の教育思想 キーワード: 「子どもから」の教育、ルソー、デューイ、大正自由教育
12	子どもと家族の歴史の思想④—児童虐待 キーワード: 家族の多様化、児童虐待防止法、児童相談所対応件数、愛着形成
13	学校文化の歴史と思想①—学校建築の歴史的変遷 キーワード: 学校文化の生成、擬洋風建築、兵舎モデル、オープンスクールの思想
14	学校文化の歴史と思想②—運動場と金次郎像のある風景 キーワード: 体育と徳育、遠足運動会、二宮金次郎(尊徳)、臣民モデル
15	授業のまとめと試験・今期のまとめ(30分)・最終試験(60分)

科目名	美術科指導法Ⅳ	年次	3	単位数	2
授業期間	2024年度前期	形態	講義		
教員名	田中 圭一				
クラス名	【19以降生対象】 中学免許必須 高校免許選択				
授業目的と到達目標					
美術科指導法Ⅳの目的は、美術科教育に関する基礎知識の学びと実践研究を通して、中学校・高等学校の美術科の指導方法の理解と研究を深めることにある。具体的には、「各学科の特色を生かした学習指導案」の作成及び「模擬授業」や「作品制作」等を通して質の高い授業が創造できる資質・能力の向上を図る。					
授業概要					
<ul style="list-style-type: none"> ○学習指導要領の理解を促し、適切な指導計画及び評価計画の作成に導く。 ○美術教育における基礎的な知識・技能を育成し、教材研究と指導方法および評価方法を学ばせる。 ○学習指導案を作成させ、発表形式の模擬授業の実践を通して、生徒にとって「わかりやすい授業」「楽しい授業」とは何かを協働的に考察する。 ○作品制作等を通じて指導と評価についての研究を深め、個々の題材の教材化を図らせる。 					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ○美術科を指導する教師としての専門性を高めるという意識をもって参加する。 ○配布資料はきちんとファイルし、教科書とともに毎時間持参する。 ○模擬授業を行う時の参考作品や説明資料及び演習での材料・道具などは各自が準備する。 ○「振り返りシート」等、記録する習慣をつけ、授業の成果と課題を明確にできるよう整理する。 ○授業の始業には遅刻せず、はじめと終わりの挨拶をきっちりと行う。 					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
模擬授業			20		
美術科学習指導案			20		
主体的に授業に取り組む態度及びレポート等			40		
作品制作			20		
教科書情報					
教科書1	中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 美術編				
出版社名	日本文教出版株式会社	著者名	文部科学省		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
元中学校美術科教諭(中・高美術専修免許)、教育委員会指導主事、中学校校長、小学校校長を経験した教員が、多様な教育現場での美術科授業及び美術科教員の研修指導の経験を活かし、実践的、具体的な指導方法を授業する。また、行動美術協会会員、日本美術家連盟会員である自身の作家活動の経験も活かし、クリエイターである学生の意識に寄り添いながら美術教育に導いていく。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	○「美術科指導法Ⅲ」ガイダンス 授業目的と到達目標を知る。 授業の方針と授業の概要について理解する。
2	○新学習指導要領解説美術編の内容について 改訂の背景と意義について理解する。
3	○学習指導計画等について 各学年の年間指導計画及び美術科学習指導案について理解する。
4	○美術科学習指導案作成 自分の得意題材の美術科学習指導案を作成し提出する。
5	○模擬授業1 提出した学習指導案をもとに模擬授業を行う。 わかりやすい授業の進め方について研究する。 学習指導案をもとに指導と評価を考案する。 評価シートを活用し他者の授業を評価する。
6	○模擬授業2 提出した学習指導案をもとに模擬授業を行う。 わかりやすい授業の進め方について研究する。 学習指導案をもとに指導と評価を考案する。 評価シートを活用し他者の授業を評価する。
7	○模擬授業3 提出した学習指導案をもとに模擬授業を行う わかりやすい授業の進め方について研究する。 学習指導案をもとに指導と評価を考案する。 評価シートを活用し他者の授業を評価する。
8	○模擬授業4 提出した学習指導案をもとに模擬授業を行う。 わかりやすい授業の進め方について研究する。 学習指導案をもとに指導と評価を考案する。 評価シートを活用し他者の授業を評価する。
9	○表現教材の研究→「音楽と美術のハーモニー」～音・形・色～ 抽象表現を通して表現の多様性を学ぶ。
10	○表現教材の研究→「自画像」1 デッサンで自画像を描く。 作品制作から評価の観点を考える。
11	○表現教材の研究→「自画像」2 前時のデッサンをもとに水彩絵の具等で心象を含めた自画像を制作する。 作品の制作に集中させる言葉がけを考える。
12	○表現教材の研究→「自画像」3 制作意欲を高める工夫について考える。 技法について工夫する。

13	<p>○表現教材の研究→「自画像」4 制作された作品を展示する。 作品制作の過程について発表し相互評価を行う。</p>
14	<p>○鑑賞教材の研究1 映像等による鑑賞、アートカードを使った鑑賞、美術館を活用した鑑賞、対話型鑑賞等について学ぶ。</p>
15	<p>○鑑賞教材の研究2 学習環境の整備や校内作品展示の工夫等について学ぶ。 ○美術科経営の理念について 学校現場で活躍する先輩教員から学ぶ。 ○授業全体の振り返りとまとめ</p>

科目名	教育課程総論	年次	2	単位数	2
授業期間	2024年度前期	形態	講義		
教員名	吉田 茂孝				
クラス名	【19以降生対象】				
授業目的と到達目標					
<p>本授業のテーマは、学習指導要領と教育課程の編成原理と教育課程編成・マネジメントについて学ぶということにある。よって、本授業の到達目標は次のとおりである。</p> <p>(1)学習指導要領についての基本的な知識・理解を身につける、(2)教育課程の編成原理について理解し、それぞれを関連付けて自ら教育課程編成について考えることができる、(3)教育課程編成の方法やマネジメントの方法について理解する。</p>					
授業概要					
<p>対面授業 本授業では主として、①学習指導要領の意義とその特徴に関する基本的な理解、②教育課程の編成原理のそれぞれの特徴、③それらに関する歴史的展開をふまえた今日の編成原理に関する考え方について、理解することをねらいとする。そのために、学習指導要領およびその解説、教育課程の編成原理に関する資料、カリキュラム・マネジメントに関する資料を用いて、講義形式と演習形式の両方を取り入れた学習を行う。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>授業の最初に講義のテーマを予告するので、それに関する予習をしておくこと。また、履修する学生には、前時の復習が求められる。配布したプリントなどを熟読しておくこと。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
毎回の授業での小レポート・レポート			45		
テスト			55		
教科書情報					
教科書1	中学校学習指導要領(平成29年告示)				
出版社名		著者名			
教科書2	高等学校学習指導要領(平成30年告示)				
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	『よくわかる教育課程 第2版』				
出版社名	ミネルヴァ書房	著者名	田中耕治編		
参考書名2	『よくわかる教育評価 第3版』				
出版社名	ミネルヴァ書房	著者名	田中耕治編		
参考書名3	岩波講座 教育変革への展望5 学びとカリキュラム				
出版社名	岩波書店	著者名	秋田喜代美編		
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	教育課程と学習指導要領に関する基本的理解
2	学習指導要領の特徴
3	教育課程(カリキュラム)の展開(1)-意図したカリキュラム-
4	教育課程(カリキュラム)の展開(2)-実施/達成したカリキュラム-
5	中間まとめ-教育課程と学習指導要領の関連-
6	教育課程の変遷(1)-経験主義-
7	教育課程の変遷(2)-系統主義-
8	教育課程の変遷(3)-新しい力と学力低下論争-
9	教育課程の変遷(4)-コンピテンシーの育成-
10	中間まとめ-教育課程編成の特徴-
11	教育課程と学力形成-学びからの逃走-
12	教育課程と学力形成-学力低下と学びの質-
13	教育課程と学力形成-PISA とキー・コンピテンシー
14	教育評価の目的と方法
15	全体のまとめ-教育課程編成の意義と課題-

科目名	教育課程総論	年次	2	単位数	2
授業期間	2024年度 前期	形態	講義		
教員名	北川 剛司				
クラス名	【19以降生対象】				
授業目的と到達目標					
<p>本授業のテーマは、学習指導要領と教育課程の編成原理と教育課程編成・マネジメントについて学ぶということにある。よって、本授業の到達目標は次のとおりである。(1)学習指導要領についての基本的な知識・理解を身につける、(2)教育課程の編成原理について理解し、それぞれを関連付けて自ら教育課程編成について考えることができる、(3)教育課程編成の方法やマネジメントの方法について理解する。</p>					
授業概要					
<p>対面授業本授業では主として、①学習指導要領の意義とその特徴に関する基本的な理解、②教育課程の編成原理のそれぞれの特徴、③それらに関する歴史的展開をふまえた今日の編成原理に関する考え方について、理解することをねらいとする。そのために、学習指導要領およびその解説、教育課程の編成原理に関する資料、カリキュラム・マネジメントに関する資料を用いて、講義形式と演習形式の両方を取り入れた学習を行う。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>授業の最初に講義のテーマを予告するので、それに関する予習をしておくこと。また、履修する学生には、前時の復習が求められる。配布したプリントなどを熟読しておくこと。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
毎回の授業での小レポート・レポート			60		
テスト			40		
教科書情報					
教科書1	中学校学習指導要領総則編(平成 29 年告示)				
出版社名		著者名			
教科書2	高等学校学習指導要領総則編(平成 30 年告示)				
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	『よくわかる教育課程 第2版』				
出版社名	ミネルヴァ書房、2018年	著者名	田中耕治編		
参考書名2	『よくわかる教育評価 第3版』				
出版社名	ミネルヴァ書房、2021年	著者名	田中耕治編		
参考書名3	『岩波講座 教育変革への展望5 学びとカリキュラム』				
出版社名	岩波書店、2017年	著者名	秋田喜代美編		
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	教育課程と学習指導要領に関する基本的理解
2	新学習指導要領の特徴
3	教育課程(カリキュラム)の展開(1)-意図したカリキュラム-
4	教育課程(カリキュラム)の展開(2)-実施/達成したカリキュラム-
5	中間まとめ-教育課程と学習指導要領の関連-
6	教育課程の変遷(1)-経験主義-
7	教育課程の変遷(2)-系統主義-
8	教育課程の変遷(3)-新しい力と学力低下論争-
9	教育課程の変遷(4)-コンピテンシーの育成-
10	中間まとめ-教育課程編成の特徴-
11	教育課程と学力形成-学びからの逃走-
12	教育課程と学力形成-学力低下と学びの質-
13	教育課程と学力形成-PISA とキー・コンピテンシー-
14	教育評価の目的と方法
15	全体のまとめ-教育課程編成の意義と課題-

科目名	総合的な学習の時間の指導法	年次	4	単位数	1
授業期間	2024年度 後期	形態	講義		
教員名	尾張 佳子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
【授業目的】・探求的な見方、考え方の育成を目指し、「横断的、総合的な学習」の企画立案および「社会における課題等を考える」指導を行う資質能力の育成。					
【到達目標】・「総合的な学習の時間」の意義を理解するとともに具体事例を企画立案することができる					
授業概要					
[対面授業]・課題を探求し、様々な視点から考察、分析を行い探求する学びを深める・指導案作成、模擬授業などの実践を通じて学校教育の中で付けるべき力を考える					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
積極的な姿勢でしっかりとしたプレゼンテーションを行う					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
指導案・模擬授業・レポート・提出物等			60		
平常点			40		
教科書情報					
教科書1	学習指導要領解説ー総合的な学習の時間編				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
元中学校校長がその実務経験を活かして授業する					
授業計画(各回予定)					

授業回	授業内容
1	第1回 学習指導要領の理解を深める。「総合的な学習の時間」の意義を学ぶ
2	第2回 具体的な実践事例をもとに、「総合的な学習の時間」の展開方法を学ぶ
3	第3回 探求的な見方・考え方、横断的・総合的な学習の視点で具体事例を考える
4	第4回 指導事例の企画・立案・作成①
5	第5回 指導事例の企画・立案・作成②
6	第6回 模擬授業の実施①
7	第7回 模擬授業の実施②
8	第8回 模擬授業の反省および「総合的な学習の時間」の総括

科目名	教職教養演習Ⅱ	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	1
授業期間	2024年度前期	形態	演習		
教員名	松山 明				
クラス名	教員採用試験対策講座教職教養演習Ⅱ(直前)				
授業目的と到達目標					
<p>教員採用試験は各都道府県、政令指定都市ごとに実施され、出題傾向は多種多様である。また、文部科学省は新任教員の適性を前もって見極める教師インターン制度の導入を検討するなど教員の資質向上を図る動きもあり、教員への道は厳しいものになっている。本演習は教員採用試験の受験を目指す4年次生を対象に、受験教科・自治体の教員採用試験情報を収集・分析し、適切な学習と演習を通じて資質の向上を図り、教員採用の道を開く授業内容とする。</p>					
授業概要					
<p>教員としての資質向上に関する指標の基本的資質、子ども理解、学習指導、組織の運営と参画について理解する。教員採用試験に出題される教職教養や専門知識を習得し、教師としての専門性を高める。集団面接や個人面接の練習を通じて、短く簡潔に話す習慣を身につける。さらに、受験する自治体の求める教員像や教育振興基本計画の内容を理解して、自己のめざす教員像や、育てる生徒像を簡潔に話す言語力を獲得する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>マスメディアの情報に注意し、教育を取り巻く状況の変化を把握すること。また、習得すべき内容を確実に身に付けるための努力を怠らない。学習指導要領をよく理解し、生徒にとってわかりやすい授業について考えた学習指導案が作成できる資質を獲得する。挨拶の大切さを理解し、生徒に積極的に声掛けを行う等、生徒理解と対話力の向上に努力する。どんな教師をめざし、どのような生徒と学級集団を育成するかを語れるように取り組む。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
自己分析フレームシート			10%		
面接個票・エントリーシート			10%		
教育課題論文(1.目指す教師像、2.育てる生徒像、3.つくる学級像)			30%		
面接対策・面接回答ノート			30%		
教職教養模擬テスト			20%		
教科書情報					
教科書1	教員採用試験2024 教職教養頻出問題短期完成15日間				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	東京アカデミー編 教員採用試験対策 参考書Ⅰ 教職教養Ⅰ				
出版社名	七賢出版株式会社	著者名	東京アカデミー		
参考書名2	東京アカデミー編 教員採用試験対策 参考書Ⅱ 教職教養Ⅱ				
出版社名	七賢出版株式会社	著者名	東京アカデミー		
参考書名3					
出版社名		著者名			

参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
中学校美術科教諭 大阪市教育委員会指導部 中学校教育課指導主事 教務部 教職員課管理主事 大阪市立中学校校長			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1.教職教養演習Ⅱのシラバスと授業方針を理解する。受講カードに記入し学習計画の立案を行う。受験自治体の情報収集と学習計画の立案。使用する教員採用試験対策問題集の購入について		
2	2.受験自治体の求める教師像、教育振興基本計画を調査し把握する。自己分析エントリーシートの作成めざす教師像・育てる生徒像を考える。自己分析、自己PR点検		
3	3.面接の基本を学ぶ。面接練習 基本的な動き、基本的な話し方面接質問 100 について回答を考える。面接質問の過去問に対する回答を理解し、練習をする。面接対策ノートの作成 5月21日完成提出。		
4	4.学習指導要領の総則を理解する。教科の目標を理解する。中央教育審議会の答申を理解する。受験の教科の教科の目標を理解し、目指す教師像を定める。		
5	5.教育基本法を理解する。講義と演習教育基本法の18条を学ぶ。		
6	6.教職員の法規を理解する。講義と演習地方公務員法を学ぶ。		
7	7.面接練習1⇒個人面接の基本練習1面接の基本的な動きを確認する。面接の質問と回答について基本的な質問内容を理解する。		
8	8.面接練習2⇒個人面接の基本練習2面接官を理解する。面接官の視点を理解し、質問に対する話し方を体得する。		
9	9.第1次選考対策模擬テスト1 大阪市などの過去問題を活用した直前テストを受ける過去問題を解き、傾向と対策に生かす。		
10	10 第1次選考対策模擬テスト2大阪市などの過去問題を活用した直前テストを受ける過去問題を解き、傾向と対策に生かす。		
11	11.面接練習3と小テスト個人面接の基本練習3教育心理小テスト筆記試験合格後の個人面接対策を行う。基本的な質問に対して、簡潔に答える練習を反復する。		
12	12.面接練習4と小テスト個人面接の基本練習4教育法規小テスト面接で必ず質問される項目について、確実な回答の練習を行う。		
13	13.面接練習5と小テスト個人面接の基本練習5教育法規小テスト最後の一言に、感謝の気持ちを込める。最後まで気持ちを緩めない。		
14	14.二次試験に向けての対策について教科教養筆記試験対策実技試験対策一次合格者への対応模擬授業・場面指導の練習など二次試験対策場面指導・模擬授業などの面接対策		
15	15.二次試験の対策教科教養筆記試験・実技試験の対策と練習近年の実技試験課題への対応と練習面接の重点対策反復練習		

科目名	教職教養演習Ⅰ(発展)	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	1
授業期間	2024年度 後期	形態	演習		
教員名	松山 明				
クラス名	教職教養演習Ⅰ(基礎)				
授業目的と到達目標					
<p>教員採用試験は各都道府県、政令指定都市ごとに実施され、出題傾向は多種多様である。教職教養演習Ⅰは中学校・高等学校の教員採用試験の受験を目指す3年次生以下を対象としている。変化の激しい社会の中で教員に求められる資質や能力は幅広い。採用試験の動向を早期につかみ、基礎的な学習や演習等を通して、教員採用の道を実に開くように取り組む。</p>					
授業概要					
<p>教員採用試験に関する教職教養や専門知識を確実に習得するなど、教員としての専門性を高める指導を充実する。中央教育審議会の答申や学習指導要領の総則、教科の目標等をよく理解し、教育の方向性と正しい学習指導案が作成できる資質を獲得する。面接個票・エントリーシートの作成を通して、めざす教師像、育てる生徒像、取り組みたい授業論を確立する。面接練習や集団討論を通じて、自分の考えを簡潔に話す練習を重ねる。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>世界の動きと社会の変化や教育に関するマスメディアの動きに関心を持つこと。教育を取り巻く世界の状況をよく理解し習得すべき内容を確実に身に付けるように努力する。教師の専門性を高めると意識を持って参加すること。挨拶の大切さを理解し、日常生活の中で明るく元気に挨拶する習慣をつける。教職に対する情熱を失わず、教員採用テストに向けた情報・資質を確実に習得できるように努力する。教員や教職に対するマイナスイメージの報道が多いが、めざす教員像を確かに持って、着実にスキルアップするように努力する。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
自己分析フレームシート			20%		
エントリーシート・面接個票			20%		
課題論文(目指す教師像 育てる生徒像)			20%		
面接練習の評価点			20%		
面接のための面接回答ノート			20%		
教科書情報					
教科書1	教員採用試験対策 参考書Ⅰ 教職教養Ⅰ				
出版社名	七賢出版 株式会社	著者名	東京アカデミー		
教科書2	教員採用試験対策 参考書Ⅱ 教職教養Ⅱ				
出版社名	七賢出版 株式会社	著者名	東京アカデミー		
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					

出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
中学校美術科教諭 大阪市教育委員会指導部 中学校教育課 指導主事 教務部 教職員課 管理主事 大阪市立中学校校長			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1. 教職教養演習 I のシラバスと授業方針を理解する。受験自治体の教員採用情報の収集と学習計画の立案。 受講カードの記入、自己分析プロデュース企画書の記入。		
2	2. 中央教育審議会の答申と学習指導要領の要点を学ぶ。 教育原理 学習指導要領関連の小テスト 1。		
3	3. 学習指導要領の総則の内容と教科の目標を理解する。 教科の目標を理解し、教科指導のこれからの方向性を理解する。		
4	4. 面接の基本、面接官の基本的な質問内容を知る。 教職教養演習の小テスト 2		
5	5. 学習指導と生徒指導について学ぶ。 教育史の小テスト 3		
6	6. 教育基本法について学ぶ。 教育心理の小テスト 4		
7	7. 教員採用の模擬試験① 大阪市などの一次採用テストの過去問題を活用した模擬テスト		
8	8. 教育課題の論文 1「めざす教師像」 教員として各自が目指す教師像について考えをまとめる。		
9	9. 面接練習 1 予想質問に対する回答を考える。 面接の基礎・基本を学ぶ。		
10	10.面接練習 2 基本的な質問例 100 についての回答を考える。 受験する自治体の求める教師像は。教育振興基本計画は。教育施策は。		
11	11.教職員の服務、教育関連法規について学ぶ 地方公務員法を理解する 教育課題の論文 2「育てる生徒像」		
12	12.エントリーシートの記入を考える エントリーシートの記入内容について各自の経験、賞罰等を正しく記入する。		
13	13. 集団討論 GD「そだてる生徒」「つくる学級像」 2 グループに分かれて集団討論 GD を行う。GD 以外の人は討論者の評価を行う。		
14	14. 面接練習 3 基本的な動きを理解する。話し方の基本原則を知る。 挨拶、話し方、視線、歩き方・礼の仕方など		
15	15. 教員採用の模擬試験② 教員採用試験の受験を目指す学習とは。		

科目名	教職実践演習(中・高)	年次	4	単位数	2
授業期間	2024年度 後期	形態	演習		
教員名	尾張 佳子、土屋 尚子				
クラス名	教員免許取得				
授業目的と到達目標					
<p>・学んだ教育理念の総仕上げとして教育現場において実践的に学ぶ。 教育現場での教育活動を通して教員に求められる資質能力を理解する ・実習校での実践を通して教科指導、学級指導、生活指導など指導力向上を目指すとともに教員の仕事のやりがいを体得する</p>					
授業概要					
<p>[対面授業]・事例研究やグループなど演習を中心ぶ授業を行う。 ・教員に求められる資質能力を理解し、その向上を目指す態度を養う。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>・教員になる上での自己の課題を自覚し、真摯な態度で受講する。 ・教員として専門性を高める意識を持つ。 ・幅広い視野を持ち、指導者としての自覚を持つ。 ・あいさつ、コミュニケーションを大切にす。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
ワークシート・レポート・提出物等			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験	
元中学校校長がその実務経験を活かして授業する	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	1 学校現場の教育活動全般について学ぶ意義についてオリエンテーション
2	2～4 事例研究・グループ討論
3	5 ゲストスピーカーによる講話①
4	6～7 事例研究・グループ討論
5	8 教員免許一括申請説明会
6	9～11 事例研究・グループ討論
7	12 ゲストスピーカーによる講話②
8	13～14 事例研究・グループ討論
9	15 教育実習記録を確認しながら振り返りを行う。

科目名	教育実習 I (指導)	年次	4	単位数	1
授業期間	2024 年度 前期	形態	演習		
教員名	龍本 那津子				
クラス名	国語科免許				
授業目的と到達目標					
<p>本授業は学校現場での教育実習を通して、大学で教職や教科に関して学んだことを確認し、より深め、発展させて教員としての実践力を総合的に高めることを目的とする。</p> <p>[到達目標]・教育実習の意義を理解する。 ・教育実習に関する基本的な知識を習得する。 ・学習指導案作成の仕方を習得する。 ・学習指導案に基づき模擬授業を実施できる。 ・教育実習に臨む意欲を高め、教員としてふさわしい態度を身につける。</p>					
授業概要					
<p>対面授業事前指導においては、次の2点を行う。</p> <p>1 教育実習の意義と教員が果たす役割、学習指導、生徒指導、学級経営の方法などについて、講義やディスカッションを通して学ぶ。</p> <p>2 学習指導案の作成や模擬授業を通して実践感覚を養い、自己の課題を明確にする。事後指導においては、全体での振り返り、および個人面談による指導助言を行う。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ・真摯な態度で授業に臨むこと。 ・実習校、大学との事務的な処理を迅速 ・確実にすること。 					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
実習校の評価			20		
授業への積極的参加度			40		
発表・課題・レポート			40		
教科書情報					
教科書1	よくわかる教職シリーズ 教育実習安心ハンドブック				
出版社名	学事出版	著者名	小山茂樹 編著		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					

出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
元高等学校国語科教諭の教員が、高等学校国語科授業および学級運営、校務などの経験を活かして、模擬授業の実施や実習生として必要な心構えなどについて具体的に指導する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1 教育実習の意義について		
2	2 学校教育を支えるもの		
3	3 生徒理解-現状と課題		
4	4 生徒理解-指導の実際		
5	5 学級経営の意義とその具体		
6	6 教師の資質と役割		
7	7 今日的教育課題と教育改革		
8	8 学力観とその変遷-学力調査とその現状		
9	9 学習指導の進め方		
10	10 指導案の作成と授業の実際-模擬授業の実施(第1回)		
11	11 指導案の作成と授業の実際-模擬授業の実施(第2回)		
12	12 指導案の作成と授業の実際-模擬授業の実施(第3回)		
13	13 学習指導における教師のリーダーシップ		
14	14 教育実習		

科目名	教職教養演習Ⅱ	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	1
授業期間	2024年度前期	形態	演習		
教員名	尾張 佳子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
・教員採用試験に向けて自治体ごとの専門実技対策を行う。					
授業概要					
・教員採用試験に向けて実技対策(ピアノ・専門楽器・弾き歌い・アルトリコーダー・和楽器等)を行う。 ・面接練習、模擬授業、場面指導対策を行う。 ・筆記試験(専門科目)対策を行う。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
・目的意識を持って前向きに取り組む。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常点			100		
教科書情報					
教科書1	中学生の音楽				
出版社名	教育芸術社	著者名			
教科書2	音楽のおくりもの				
出版社名	教育出版社	著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
元中学校校長(音楽科)がその実務経験を活かして授業する					
授業計画(各回予定)					

授業回	授業内容
1	[対面授業]第1回 受験自治体の実技試験内容の確認
2	第2回 中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技対策
3	第3回 中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技対策
4	第4回 中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技対策
5	第5回 中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技・アルトリコーダー・専門楽器対策
6	第6回 中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技・アルトリコーダー・専門楽器対策
7	第7回 中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技・面接指導対策
8	第8回 中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技・面接指導対策
9	第9回 中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技・面接指導対策
10	第10回 中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技・場面指導対策
11	第11回 中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技・場面指導対策
12	第12回 中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技・模擬授業対策
13	第13回 中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技・模擬授業対策
14	第14回 中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技・専門筆記試験対策
15	第15回 中学校共通教材の弾き歌い・ピアノ実技・専門筆記試験対策

科目名	教育実習 I (指導)	年次	4	単位数	1
授業期間	2024 年度 前期	形態	演習		
教員名	尾張 佳子				
クラス名	音楽科免許				
授業目的と到達目標					
<p>・学んだ教育理念の総仕上げとして教育現場において実践的に学ぶ。 教育現場での教育活動を通して教員に求められる資質能力を理解する ・実習校での実践を通して教科指導、学級指導、生活指導など指導力向上を目指すとともに教員の仕事のやりがいとを体得する</p>					
授業概要					
<p>[対面授業]・学習指導要領を理解し、学習指導案を適切に作成することができる。 ・音楽科教員として、魅力ある楽しい授業作りができる。 ・指導案作成や模擬授業を通して教育実習に臨む力を育成する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>・教育実習の意義と心構えを理解し、真摯な態度で受講する。 ・音楽科教員として専門性を高める意識を持つ。 ・生徒にとって分かりやすい、楽しい授業作りの視点を持つ。 ・あいさつ、コミュニケーションを大切にする。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
学習指導案・模擬授業・ワークシート・レポート・教育実習等			70		
平常点			30		
教科書情報					
教科書1	中学校学習指導要領解説一音楽編				
出版社名		著者名	文部科学省		
教科書2	中学生の音楽 1/2・3上下 中学生の器楽				
出版社名		著者名	教育芸術社		
教科書3	中学音楽 音楽のおくりもの1/2・3上下 中学器楽				
出版社名		著者名	教育出版		
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験	
元中学校校長(音楽科)がその実務経験を活かして授業する	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	1、教育実習の心得、学校現場の教育活動全般について学ぶ。
2	2、「教育実習Ⅰ」の授業方針の理解。教育実習の意義および基本方針の理解。実習校との事務手続き、打合せについての確認。
3	3、学習指導要領解説音楽編を理解し、音楽科の「意義」と生徒に育むべき「資質能力」を学ぶ。
4	4、学習指導計画(指導事項・題材設定・共通事項・授業展開)の理解。
5	5、表現(歌唱・器楽・創作)、鑑賞における授業構成について学ぶ。
6	6、音楽科学習指導案の具体例を参考にし、学習指導案を作成する(1)
7	7、音楽科学習指導案の具体例を参考にし、学習指導案を作成する(2)
8	8、音楽科学習指導案の具体例を参考にし、学習指導案を作成する(3)
9	9、「主体的・対話的・深い学び」の視点での模擬授業の実施(1)
10	10、「主体的・対話的・深い学び」の視点での模擬授業の実施(2)
11	11、「主体的・対話的・深い学び」の視点での模擬授業の実施(3)
12	12、「主体的・対話的・深い学び」の視点での模擬授業の実施(4)
13	13、指導と評価について学ぶ(目標に準拠した評価・観点別評価)
14	14、学校の日、教育活動全般について学ぶ(教科指導・学級活動・生活指導・道徳)教員の服務規律および職務上の義務について学ぶ。
15	15、実習記録の記載法についての理解。

科目名	教育実習 I (指導)	年次	4	単位数	1
授業期間	2024 年度 前期	形態	演習		
教員名	松山 明				
クラス名	美術科・工芸科免許				
授業目的と到達目標					
世界のグローバル化により既存の価値観が揺り動かされ、教育も変革の波にさらされている。現代の教育改革の時代に教員をめざして学んできた教職課程履修の仕上げとして一般教養、教職専門、各教科のすべての内容をより深く理解するとともに、実習校での実践を通じて教科指導、生徒指導、学級指導などの指導力の向上を図る。また、教師としての熱い情熱の育成と、質の高い授業が創造できる人間力の獲得をめざす。					
授業概要					
実習校での生徒や教職員との人間関係を円滑に構築するため、挨拶や声掛けなどのコミュニケーション力の向上と社会性の育成に努める。教員に求められる指導力を学び、教職に対する意欲の向上と目標の具体化を図る。美術科学習指導案に基づき、具体的な授業が展開できるよう、生徒への話し方、導入・展開の発問、板書の仕方、参考作品の提示など生徒を引き付ける要点について学ぶ。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
学習指導要領の理解(1H)指導計画の作成と内容の取扱い(1H)挨拶の練習(1H)学級活動での話題(1H)など教育実習で学ぶという意義と心構えをよく理解し、真摯な態度で参加すること。授業の目標を明確にし、わかりやすい授業を創造できるように授業計画を立案する。挨拶の大切さと生徒に積極的に声掛けを行うなどコミュニケーション力を高めるよう努力する。実習中の活動はすべて実習ノートに記録し、成果と課題を整理する習慣を身につける。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
美術科学習指導案(わかりやすい学習指導案の作成)			10%		
レポート1~4(挨拶、励ましの言葉、お礼状、教育実習を終えて)			40%		
模擬授業評価点(模擬授業の評価シートの活用)			10%		
美術教育鑑賞テスト(事後指導の⑭⑮に行います)			20%		
教育実習の成績			20%		
教科書情報					
教科書1	中学校学習指導要領解説美術編				
出版社名	日本文教出版株式会社	著者名	文部科学省		
教科書2	高等学校学習指導要領解説芸術編・美術編				
出版社名	教育出版株式会社	著者名	文部科学省		
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	美術資料				
出版社名	株式会社秀学社	著者名	京都市立大学美術教育研究会		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					

出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
中学校美術科教諭 大阪市教育委員会指導部 中学校教育課指導主事 教務部 教職員課管理主事 大阪 市立中学校校長			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	1. 教育実習生の心得を学ぶ。教育実習の法的根拠、教育実習の目的、教育実習の流れ、サービスの 根本基準 守秘義務 教育実習中の心構え 中学校・高等学校の教育活動の現状について理解する。		
2	2. 教育実習Ⅰのシラバスと授業方針を知る。教育実習の意義と基本的態度を理解する。 実習校との打ち合わせと教育指導の計画について理解する。		
3	3. 学習指導要領解説美術編の教科の目標を理解し、学習指導案の 作成の基礎・基本をもう一度 確認する。 中学校・高等学校の学習指導要領、美術科の目標及び内容、学年の目標及び内容を理解し指導 案を作成する。		
4	4. 美術科学習指導案をもとに模擬授業1を行う。表現・鑑賞の領域、視聴覚機器の活用班に分け て円滑に行う。 教育実習で活用できる「美術科学習指導案」を作成する。他者の授業の指導案を参考に、指導の 幅を広げる。		
5	5. 模擬授業2を行う。挨拶や板書、参考作品の提示、発問の仕方、道具の使い方等の授業の指導 要点を理解する。 パワーポイントの活用など、わかりやすい導入を工夫する。		
6	6. 模擬授業3を行う。片付けの指示、制作態度の評価、自己評価カードの作成と活用に留意す る。 スマートフォンの画像を、書画カメラでスクリーンに拡大するなどわかりやすい授業づくりを工夫 する。		
7	7. 模擬授業4を行う。生徒の制作意欲を喚起する、励ましの言葉、声掛けの仕方の工夫。 授業の展開時の生徒への声掛け、アドバイスの仕方について研究する。励ましの言葉、褒め方の 工夫 等		
8	8. 実習生の一日(学級活動、研究授業、生徒指導、特別活動、道徳指導、部活動指導など) 実習 ノートへの記入について 理解する。実習校の先輩教員の授業を観察する。授業を参観し、気付きは アドバイスシートに記入する。		
9	9. 話し方・挨拶練習1 ⇒ 教職員との関係づくり、研究授業反省会での挨拶と話し方を学ぶ 学級での自己紹介 現在取り組んでいること、大学での制作活動、自分の進路やこれまでの経験 談などをまとめる。		
10	10. 話し方・挨拶練習2 ⇒ 生徒交流の仕方、全校集会、学年集会、所属学級での挨拶を通じて 自分の考えを整理する。 教員向けの挨拶文の作成、生徒向けの挨拶文の作成。		
11	11. 学校教育法、地方公務員法等、教員の服務規律と職務上の義務について学ぶ。 教育実習では、教員としてどのように生徒と接するか。守秘義務など		
12	12. 教育実習校との事前打ち合わせについて 教育実習担当者から聞き取ること。		
13	13. 教育実習終了後にすぐに取り組むこと。教育実習ノートの実習校への提出、実習校へのお礼 状の作成と送付。		

14	14. 教育実習の振り返りと成果の検証 教育実習の成果と課題のまとめ 班別の話し合いを通じて教育実習を総括する。
15	15. 教育実習の総括から、求められる教師像、育てる生徒像とこれからの美術教育について考える。